

付 録

カラーアトラス

目次

シカ

外貌観察	4
胸腔・腹腔内臓器	6
摘出した内臓	8
胸腔・心臓・肺	9
心臓	10
肺	11
消化管	13
肝臓	14
脾臓	19
腎臓	20
腸管	24
泌尿器および生殖器	26

イノシシ

内臓摘出前	28
摘出した内臓	30
Manson 孤虫症	32
胸腔・心臓・肺	33
心臓	34
(参考)豚の疣贅性心内膜炎	35
肺	36
(参考)豚の肺膿瘍	37
肝臓	38
脾臓/子宮・卵巣	43
腎臓	44
胃腸	48
頭部	53
(参考)豚の膿毒症	54
(参考)豚の豚丹毒(蕁麻疹型)	55

写真の出典:写真下に記載のないものは、厚生労働科学研究「野生鳥獣由来食肉の安全性確保に関する研究」 研究代表者 高井伸二 提供

シカ

外貌観察

オス



メス



マダニは野生シカやイノシシなどの体表に寄生していることが多い。
マダニは様々な感染症を媒介するため、狩猟者や解体者はマダニに刺されないよう
防御対策を心がける必要がある。

マダニ寄生



疥癬



(家畜疾病総合情報システム 監視伝染病診断指針)

疥癬症

・ヒゼンダニによる皮膚感染症で脱毛や
痂皮形成等が見られる

筋水腫(ズル)



(岐阜大野生動物センター 森部 絢嗣先生 提供)

水腫とは、筋間に余分な体液が溜まっている状態のことであり、局所的に見られるものは一部廃棄となるが、四肢や体幹など全身的水腫の場合には廃棄すべきである。

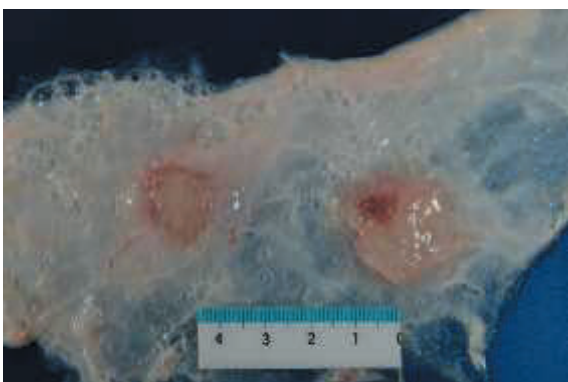
オンコセルカ症(回旋糸状虫症)



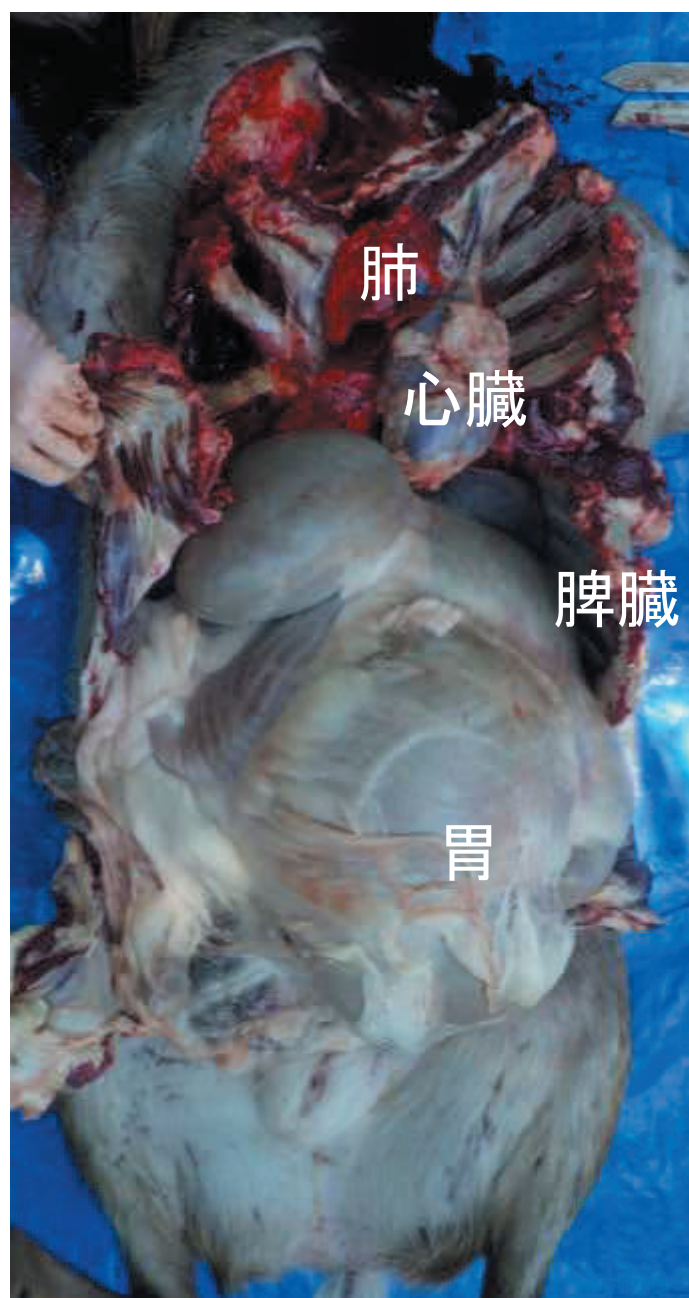
回旋糸状虫という寄生虫感染によって生じる。ブユの刺咬によって幼虫が皮膚に接種され、皮下結節内で成虫に成長する。
⇒全廃棄

* 左下写真はシカの皮下組織から摘出された回旋糸状虫による結節病変

* 右下写真は皮下結節の断面であり、結節内に虫体の断面が認められる。



胸腔・腹腔内臓器



黄疸
(牛)



肝機能の悪化や寄生虫による赤血球破壊により血中のビリルビンが増加すると可視粘膜や皮下組織、脂肪組織等が写真のように黄色調を呈する

腹腔

腹腔臓器、寄生虫



腹腔内を開けたところ、大量の線虫寄生が観察された。
⇒枝肉、内臓、全廃棄

腹膜炎

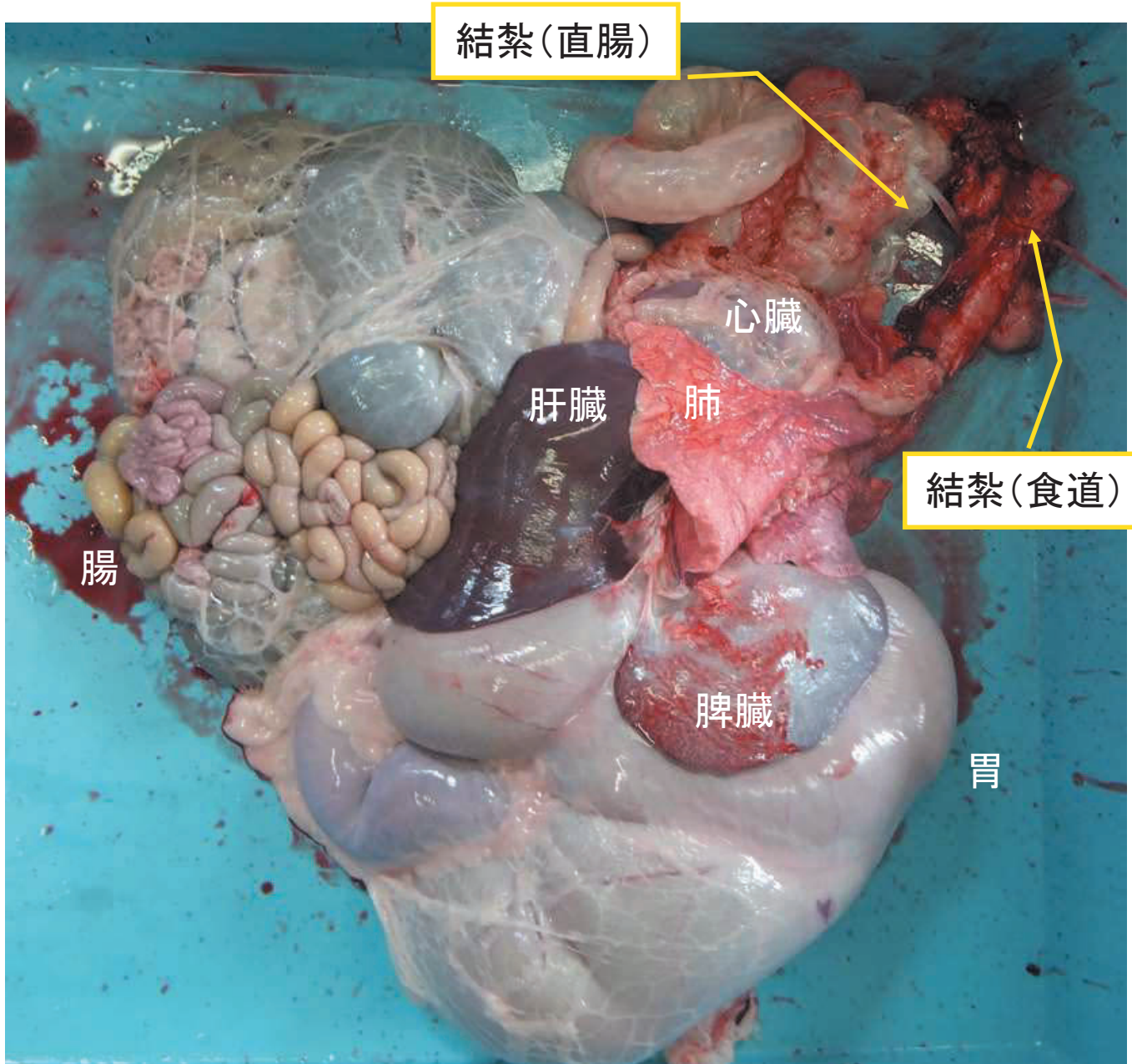


腹腔内の腸間膜や大網が炎症により肥厚し癒着（細菌や寄生虫感染によるもの、異物による腸管穿孔などでも生じる）
⇒病原体が血行性に播種している可能性があるため、枝肉・内臓、全廃棄

摘出した内臓

始めに大きく全体を確認すること

屋外で内臓摘出した場合は、胃・腸以外の内臓は、個体と一緒に、必ず食肉処理施設へ搬入すること。



北海道エゾシカ対策課 提供

※食道と直腸を結紮して、内容物が漏れ出ないようにしている

正常

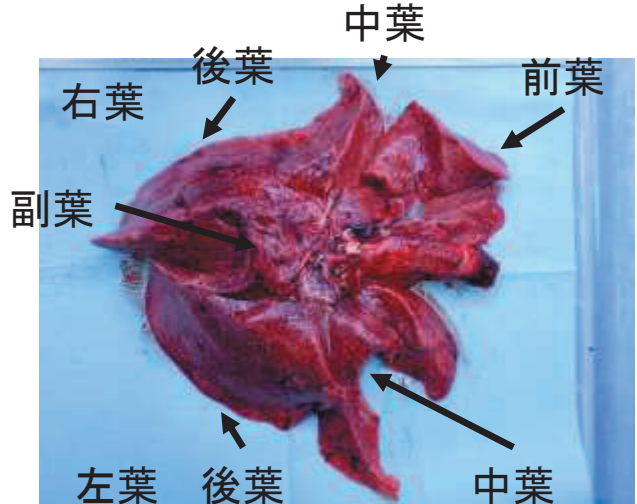
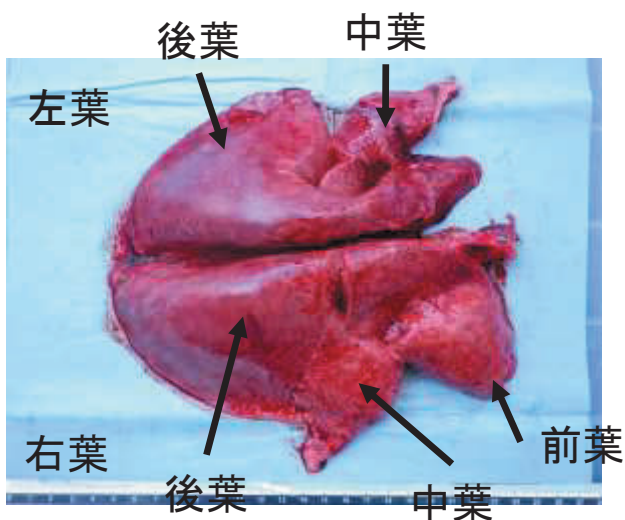
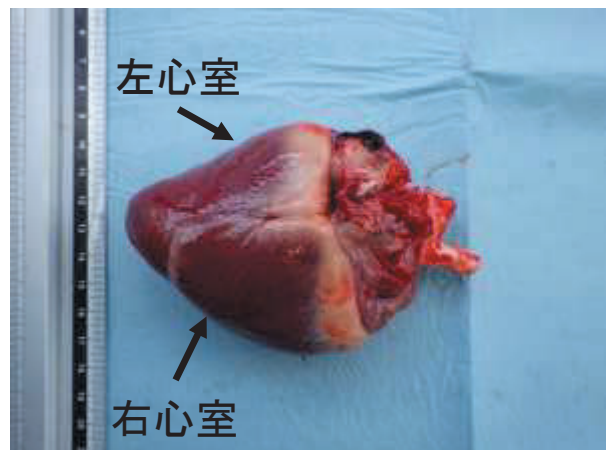
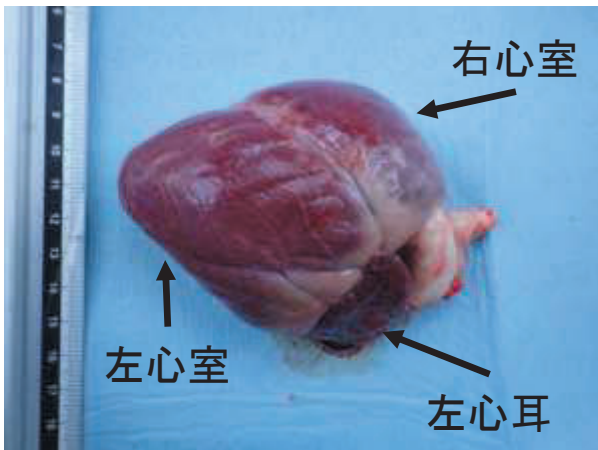
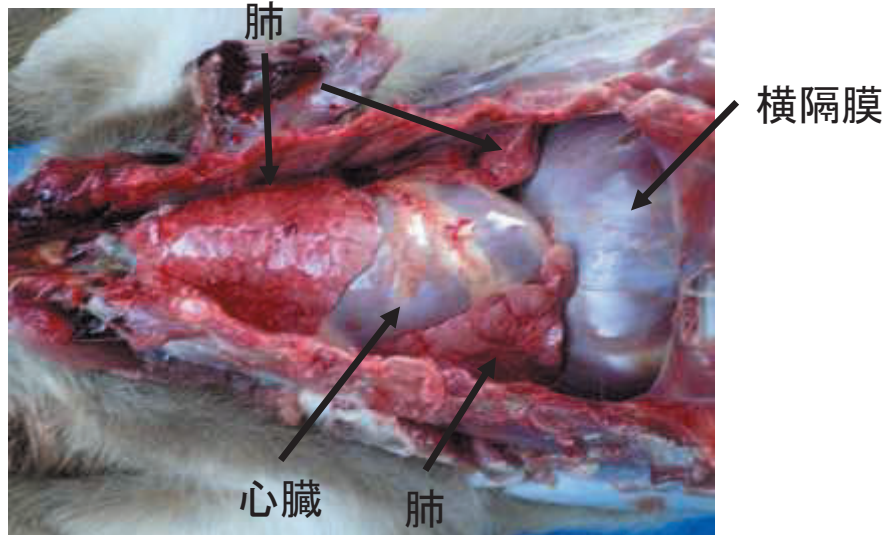
確認事項

・各臓器の表面が滑らかで、臓器ごとに色調や質感が均一であること

胸腔、腹腔を開けた際に、血液以外の液体(腹水や胸水)が溜まっていた場合には、枝肉、内臓を全部廃棄すること

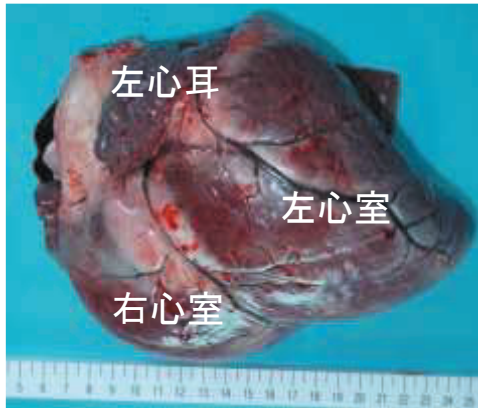
胸腔、心臟、肺

正常



心臓

屋外で内臓摘出した場合は、食肉処理施設へ搬入すること。

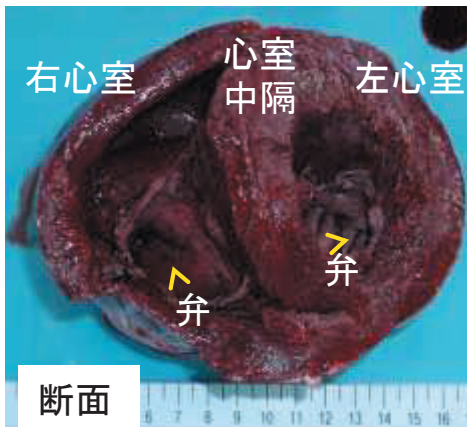


正常

確認事項

- ・表面が滑らかであること
外側に繊維のようなもの（繊維素）が付着し、ザラザラした質感になっていないこと
- ・色に異常がないこと
- ・形、大きさに異常がないこと

※心臓は必ず切開して確認すること。



断面

正常

確認事項

- ・弁に疣状の物（色や形は様々、表面もザラザラしたものから、滑らかなものまで様々）がないこと

26ページ参照

豚の疣贅性心内膜炎：弁に疣状の病変

正常

確認事項

- ・心筋に白色で粟粒から小豆ほどの大きさの結節がないこと

※心筋に白色で粟粒から小豆ほどの大きさの結節があった場合は、寄生虫に感染している可能性があります。この寄生虫は枝肉にも寄生することがあるため、全部廃棄とすること。
枝肉、内臓 全部廃棄



断面



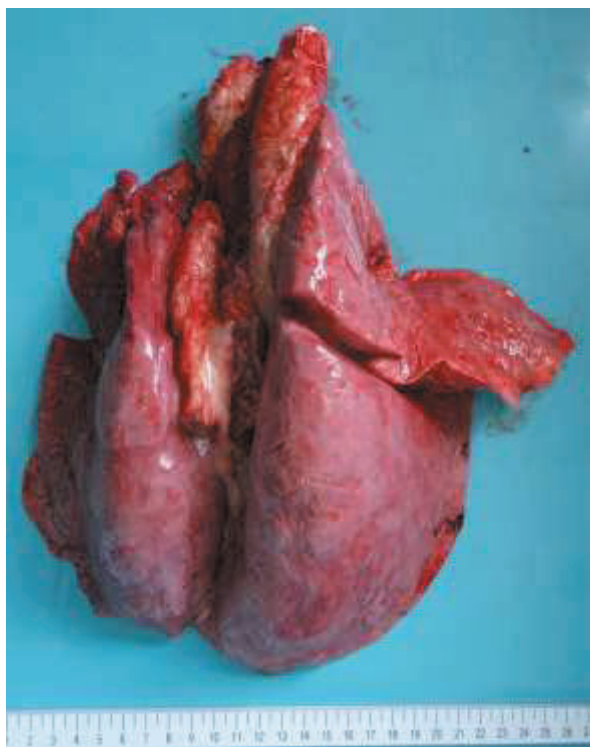
心外膜炎

異常(心外膜炎)

※心臓を覆う外膜に線維素性の炎症が生じ肥厚する。胃内の異物が横隔膜を穿孔し、細菌感染を起こして創傷性の心外膜炎に至る例が一般的である。

肺

屋外で内臓摘出した場合は、食肉処理施設へ搬入すること。

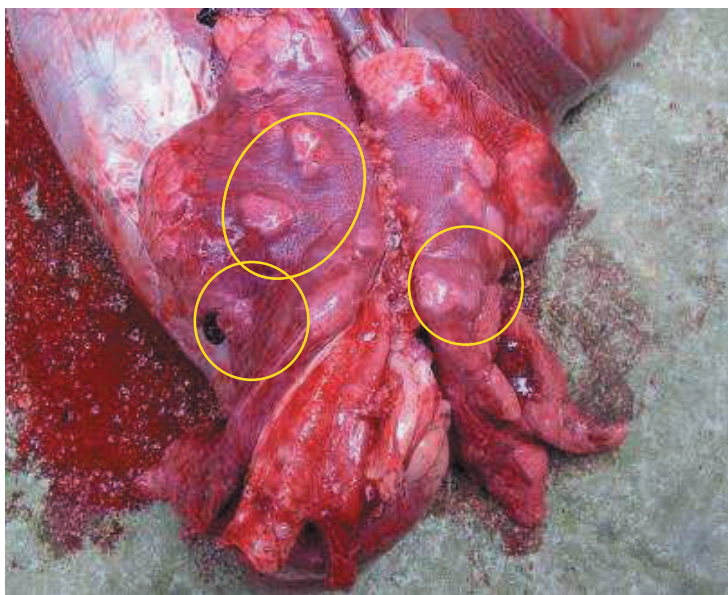


正常

確認事項

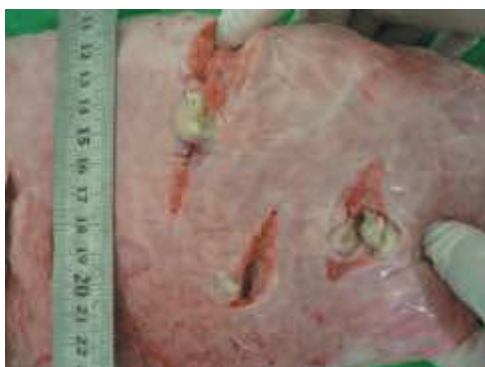
- ・表面が滑らかであること
表面に繊維素が付着していないこと
結節(膿瘍、腫瘍等)がないこと
- ・色に異常がないこと
出血していないこと
- ・大きさ、形に異常がないこと
肺気腫(肺が全体あるいは局所で過剰に空気を含み膨隆すること)
肺水腫(肺に水分が溜まり水っぽい状態)になっていないこと

* 実際には、狩猟時や死亡直前に循環障害等により肺に出血や気腫、水腫が認められることもある



白色の結節が多数見られる

枝肉、内臓 全部廃棄



(参考) 牛の肺膿瘍
クリームのような膿が見られる

枝肉、内臓 全部廃棄

断面 肺膿瘍
(通常の確認では表面から確認すること。)

神奈川県食肉衛生検査所 提供



異常(肺の白色結節)

右肺中葉から後葉、左肺後葉の一部に出血巣が認められ、白色結節が散在



<結核結節>

- ・結核菌による感染症で生じる代表的な病変
- ・主に肺や肺門リンパ節に白色～黄白色のやや硬い結節を形成する。
- ・ウシ型結核もヒト型結核も時にヒト一家畜間で相互感染するため、発見時には速やかに解体を中止すること

* 結核結節と他病変との違いは専門家では判断できないため、肺等に明らかな結節病変が認められた際には全廃棄とし、取扱いには十分注意すること

日本鹿の牛結核感染症例の肺。肺葉全域に結核結節が隆起
(秋田県中央家保 伊藤 隆先生 提供)



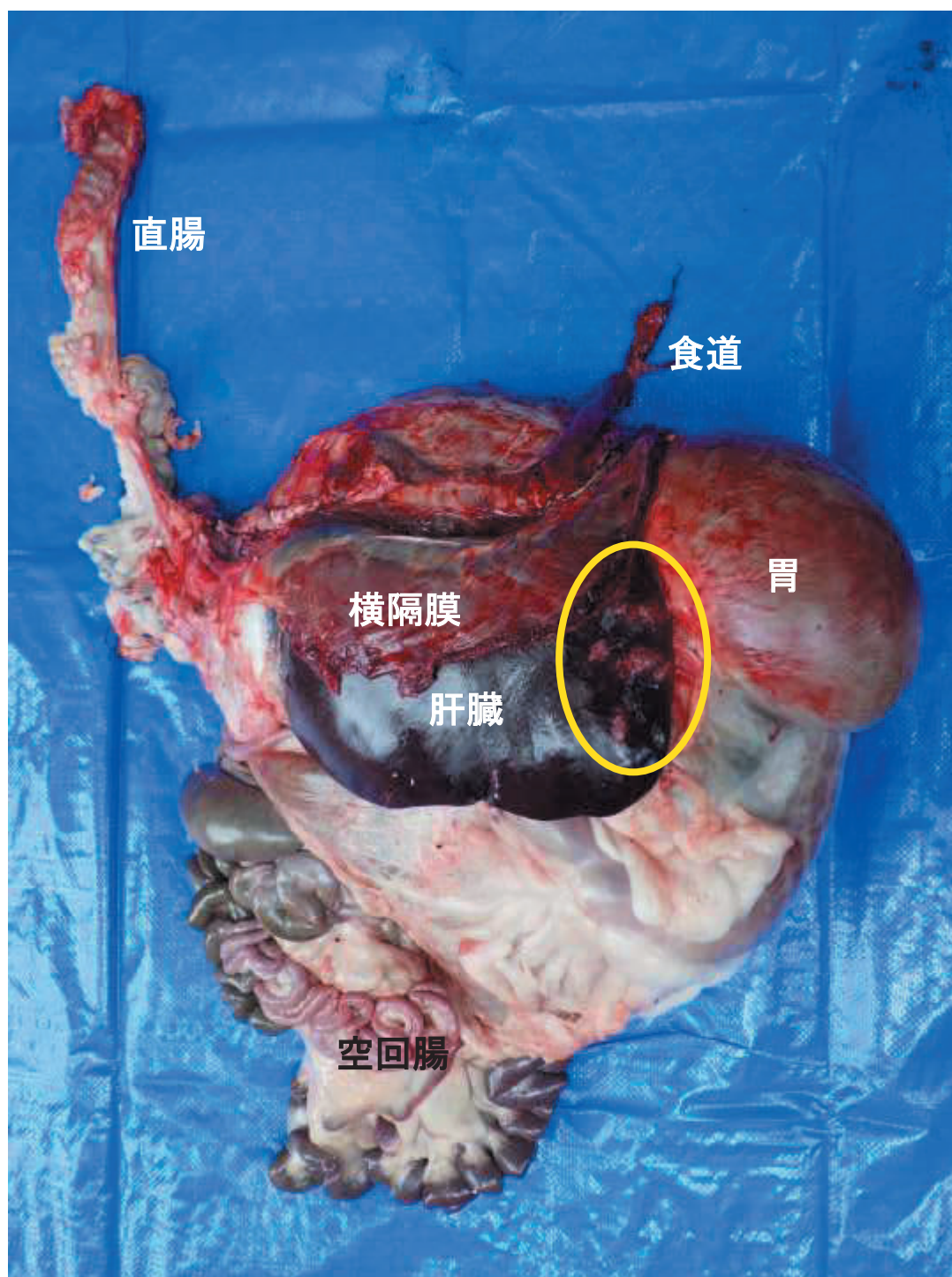
<結核:肺門リンパ節>

結核病巣を形成したリンパ節の断面は白色チーズ様の乾酪壊死巣を伴う

3の肺門リンパ節の結核性乾酪病巣
(秋田県中央家保 伊藤 隆先生 提供)

消化管

屋外で内臓摘出した場合は、食肉処理施設へ搬入すること。



成獣シカの肝臓には肝蛭(寄生虫)寄生が多く、肝蛭により隆起した結節病変(内部に肝蛭を含む肥厚した胆管)が認められることは多い

肝臓

屋外で内臓摘出した場合は、食肉処理施設へ搬入すること。

正常



確認事項

- ・表面が滑らかであること
 - 表面に繊維素が付着していないこと
 - 結節（膿瘍、腫瘍等）や嚢胞がないこと
 - 表面に白色に盛り上がった管状結節がないこと（寄生虫による病変）
 - ・色に異常がないこと
 - 出血していないこと、色調の異なる病巣がないこと
 - 黄色、緑色、暗赤色など、正常と異なる色でないこと
 - ・形、大きさに異常がないこと
 - 大きかったり、小さかったりしないこと、異常な形をしていないこと
 - 硬かったり、柔らかかったりしないこと
- * 正常個体でも、死後から解体までの時間が長いと、死後変化により他臓器に接する面が黄～緑色、退色して薄茶色を呈したり、軟化して柔らかくなることがある。



枝肉、内臓 全部廃棄

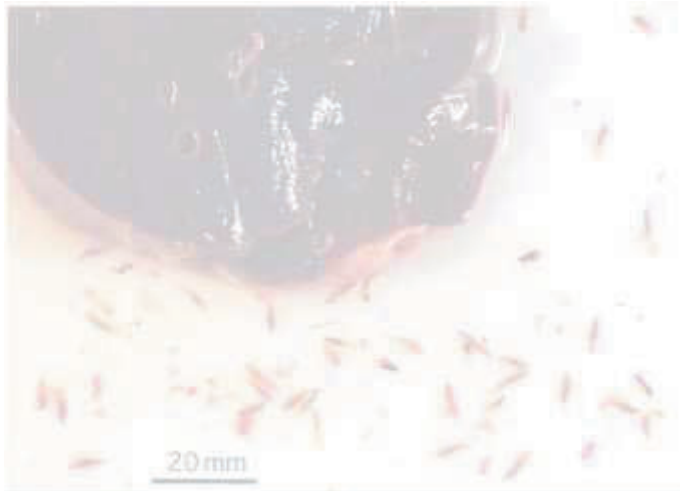
肝膿瘍

表面に盛り上がった白色の結節（膿瘍）



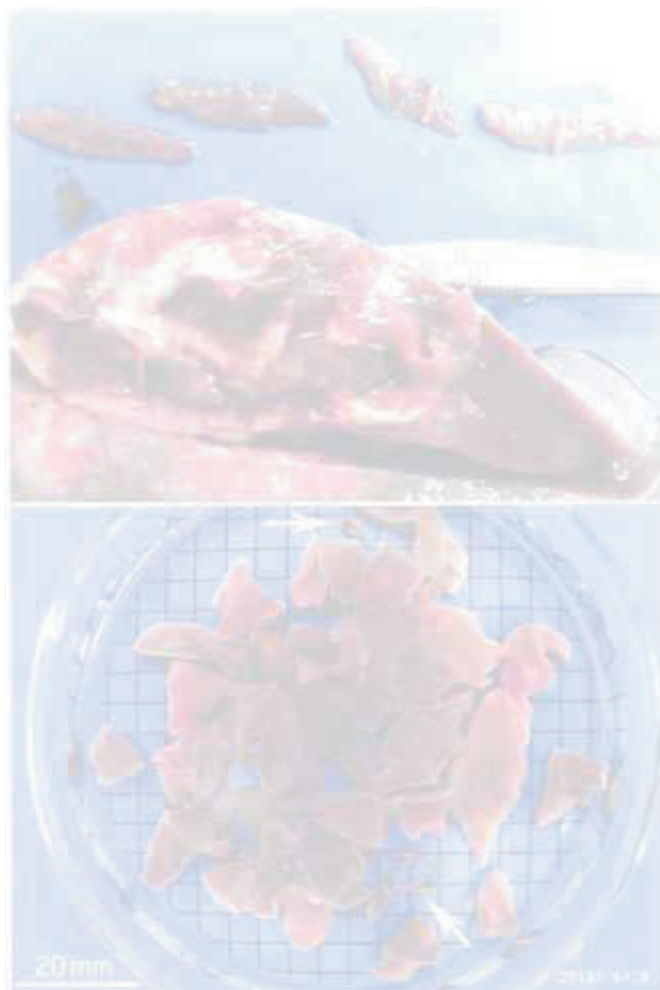
断面 肝膿瘍

（通常の確認では表面から確認すること。）



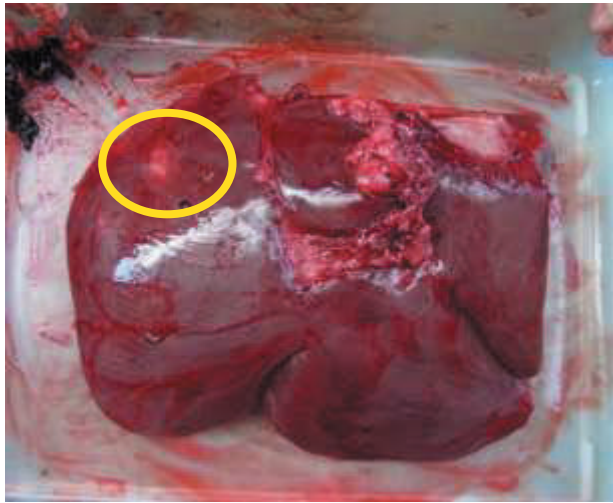
槍形吸虫

シカなどの野生動物を含む哺乳類を終宿主とする寄生虫。
肉眼病変が認められない場合でも肝臓断面から多数の虫体が検出されることがある



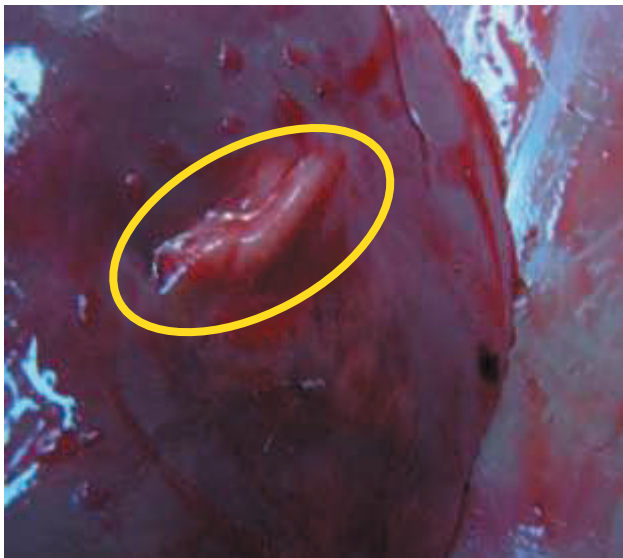
肝蛭

シカやウシ、羊など反芻獣の肝臓の胆管に生息する寄生虫。
野生の成獣シカでの解剖時には高率に発見される。
感染の慢性化により胆管に炎症を引き起こし、肉眼では白く肥厚した胆管が結節状や管状に認められることが多い。



寄生虫(肝蛭)が寄生
表面に盛り上がる白色の結節がある(胆管が寄生虫(肝蛭)により分厚くなって表面に浮き出ている)

肝臓 廃棄

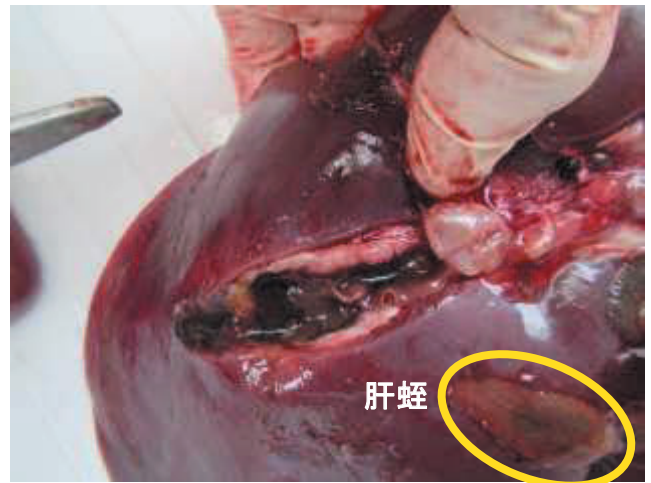


寄生虫(肝蛭)が寄生
表面に盛り上がる白色の管状の
病変ができて凹凸がある
(胆管が寄生虫(肝蛭)により分厚くなって表面に浮き出ている)

肝臓 廃棄



多数の肝蛭



肝蛭



寄生虫(肝蛭)が寄生
表面に盛り上がる白色の病変ができて
凹凸がある(胆管が肝蛭により分厚く
なって表面に浮き出ている)
全体に繊維素が付着してザラザラした
質感である

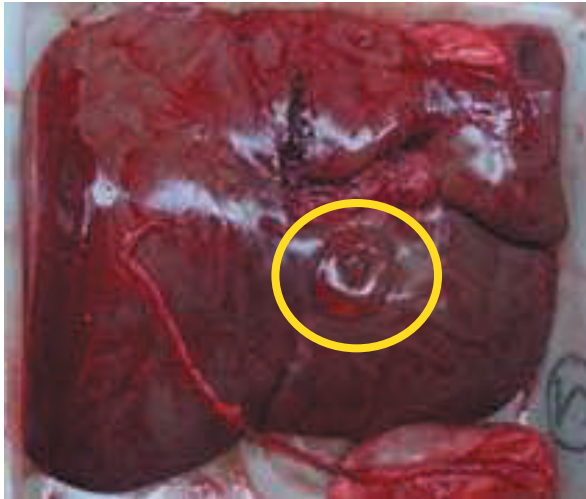
肝臓 廃棄



辺縁に白色の結節性病巣

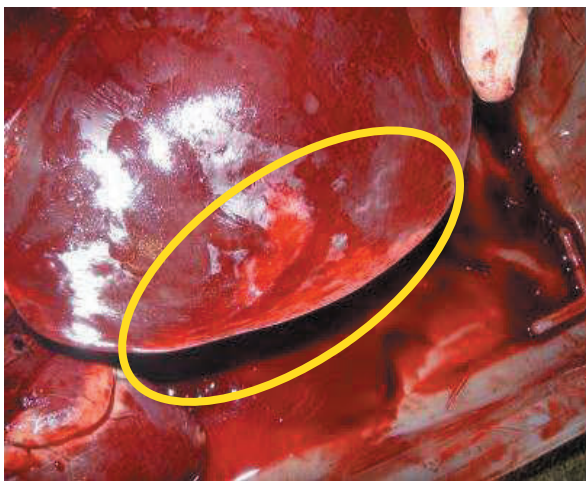


肝蛭由来の白色病巣



表面にのう胞の形成

枝肉、内臓 全部廃棄



辺縁に白色の病巣

枝肉、内臓 全部廃棄



異常(肝包膜炎)

肝臓の包膜上に多数の小結節病変が散在し、全体的に繊維素も付着しザラザラした質感を呈する

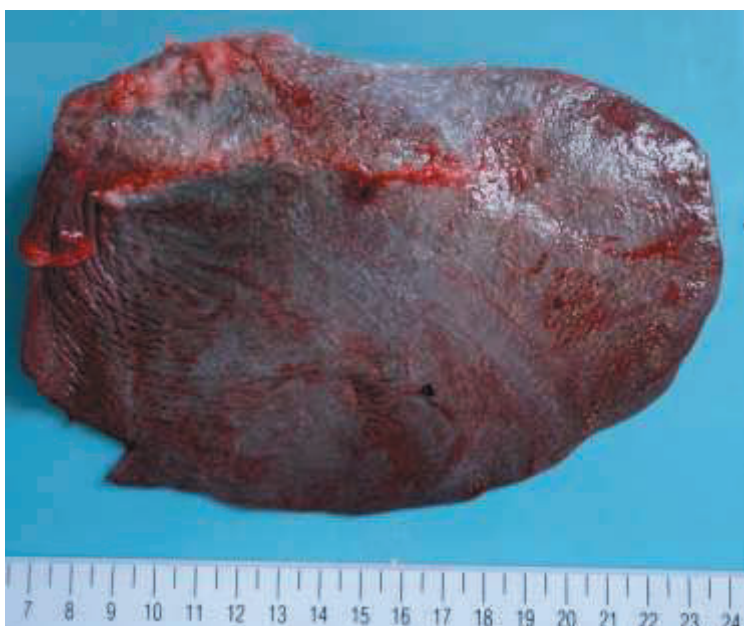


異常(肝出血)

出血傾向の場合や、物理的な衝撃により肝実質が破綻し出血を伴うことがある

脾臓

屋外で内臓摘出した場合は、食肉処理施設へ搬入すること。



正常

確認事項

- ・表面が滑らかであること
- ・結節(膿瘍、腫瘍等)がないこと
- ・色に異常がないこと
- ・出血していないこと
- ・形、大きさに異常がないこと



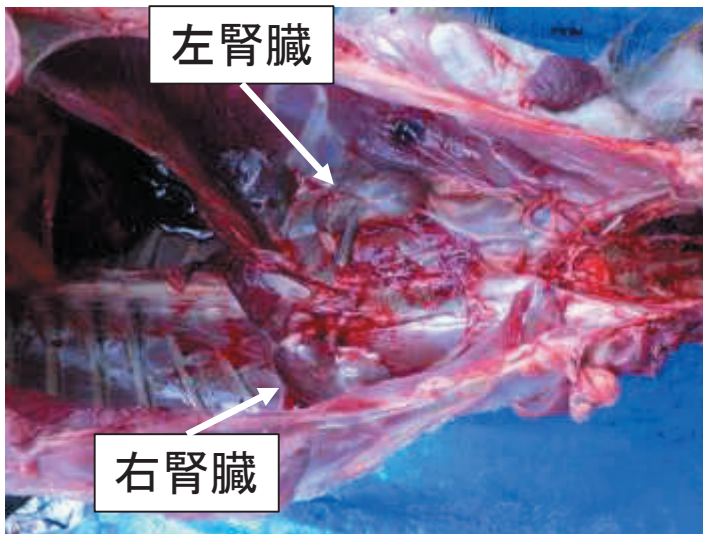
脾臓は循環器障害により血液が貯留して腫大する場合と感染により腫大する場合がある。

感染による腫大の場合には断面の白色濾胞の増大が確認されることが多い。



← 脾臓断面の白色濾胞(リンパ装置)
*この程度は正常である

腎臓 屋外で内臓摘出した場合は、食肉処理施設へ搬入すること。



正常

確認事項

- ・表面が滑らかであること
結節(膿瘍、腫瘍等)や嚢胞がなく、
寄生虫の寄生が無いこと
- ・色に異常がないこと
出血していないこと
色調の異なる病巣がないこと
- ・形、大きさに異常がないこと
左右がほぼ同じ大きさで、異常な
形をしていないこと



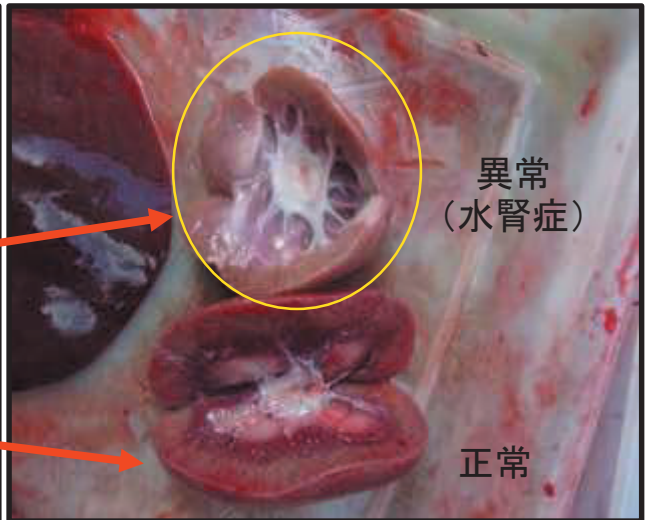
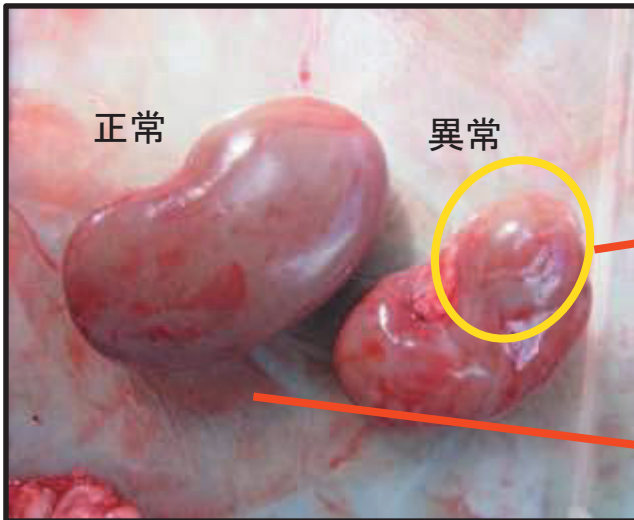
腎臓断面(正常)

* 動物が横向きで放置された場合、片側に血液が溜まり、片側腎臓だけ赤黒いことがある。



← 片側に血液が溜まり
黒っぽい色調に

* 死後変化により腸と接した面の色調が薄茶色へ退色することもある

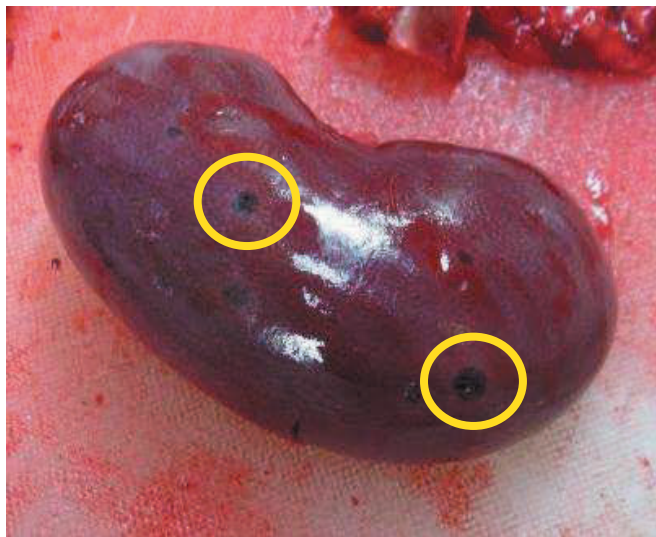


腎臓の変形 **枝肉、内臓 全部廃棄**

右側に示した腎臓はねじれたような形に変形し
左の正常腎よりも小さい

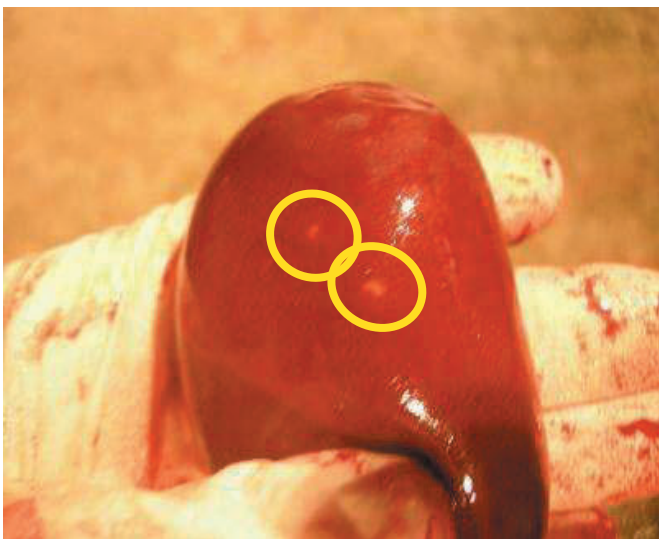
腎臓の変形 **枝肉、内臓 全部廃棄**

(通常の確認では表面から確認すること。)



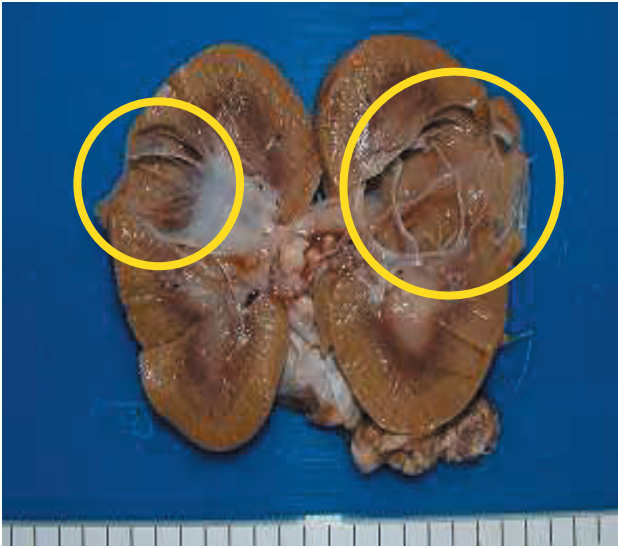
枝肉、内臓 全部廃棄

黒色をした 嚢胞が散在



枝肉、内臓 全部廃棄

白色の斑状病巣



腎臓の大きさ、形の異常(水腎症)

枝肉、内臓 全部廃棄

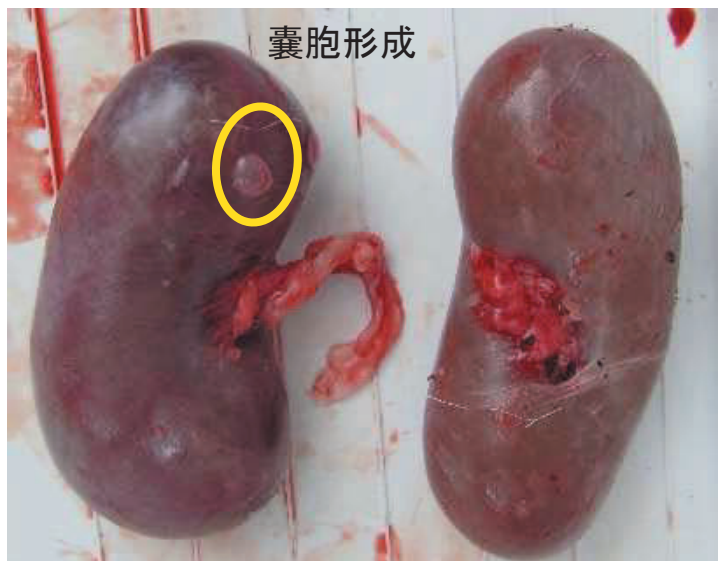
(通常の確認では表面から確認すること。)



紐状の腎虫寄生



黒色調の液体貯留



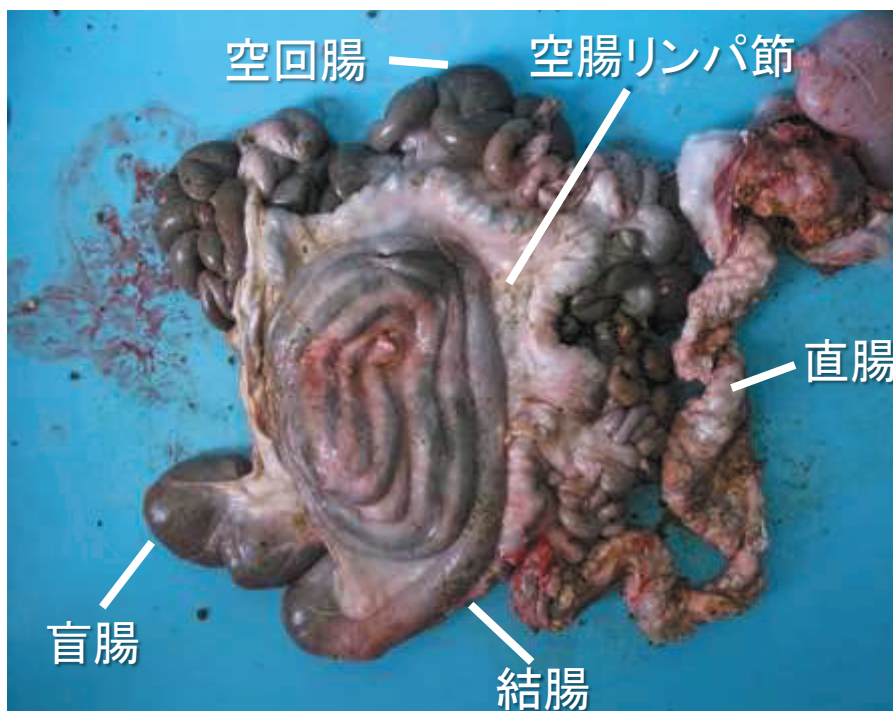
嚢胞形成



腎嚢胞

嚢胞内には液体が貯留する。
単純性と多嚢胞性があり写真は多嚢胞性の腎嚢胞。
先天性および後天性があり、後天性の原因は不明。
シカだけでなく、ヒトを含む様々な動物種で報告されている。

腸管



正常

<確認事項>

- ・他の内臓等と癒着していないこと
- ・リンパ節が腫れていないこと
- ・表面が滑らかなこと
⇒表面に繊維素が付着していないこと
- ・色に異常がないこと
⇒出血していないこと
- ・形、大きさに異常がないこと
⇒腸の一部分だけが分厚くなったり、薄くなったりしていないこと

血液の異常について

ガイドライン第2の2「狩猟しようとする又は狩猟した野生鳥獣に関する異常の確認」、第4の3「食肉処理業者が、解体前に野生鳥獣の異常の有無を確認する方法」として、天然孔（肛門や鼻孔）からの出血を確認すること。

天然孔から黒い、タール状の出血が見られる場合、炭疽という病気の可能性がある。炭疽は、

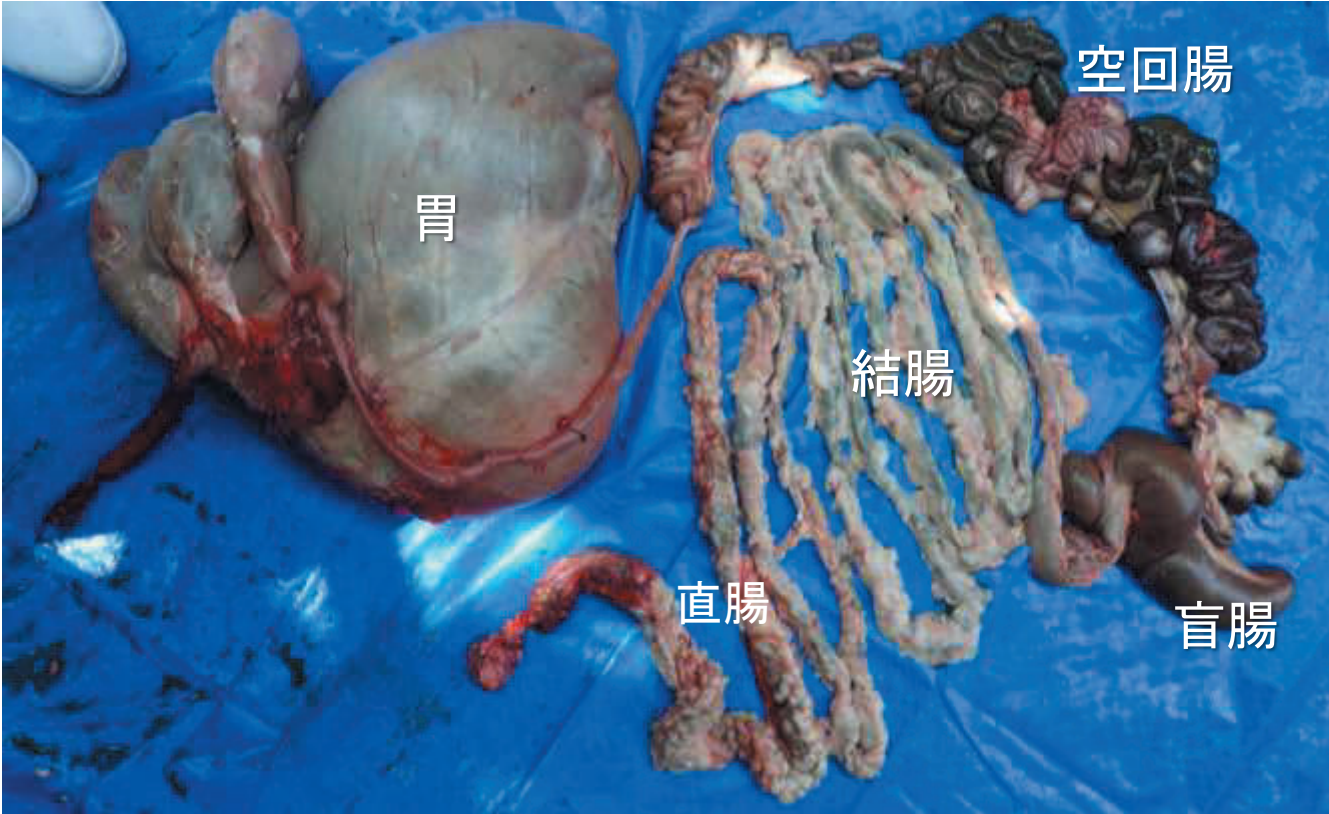
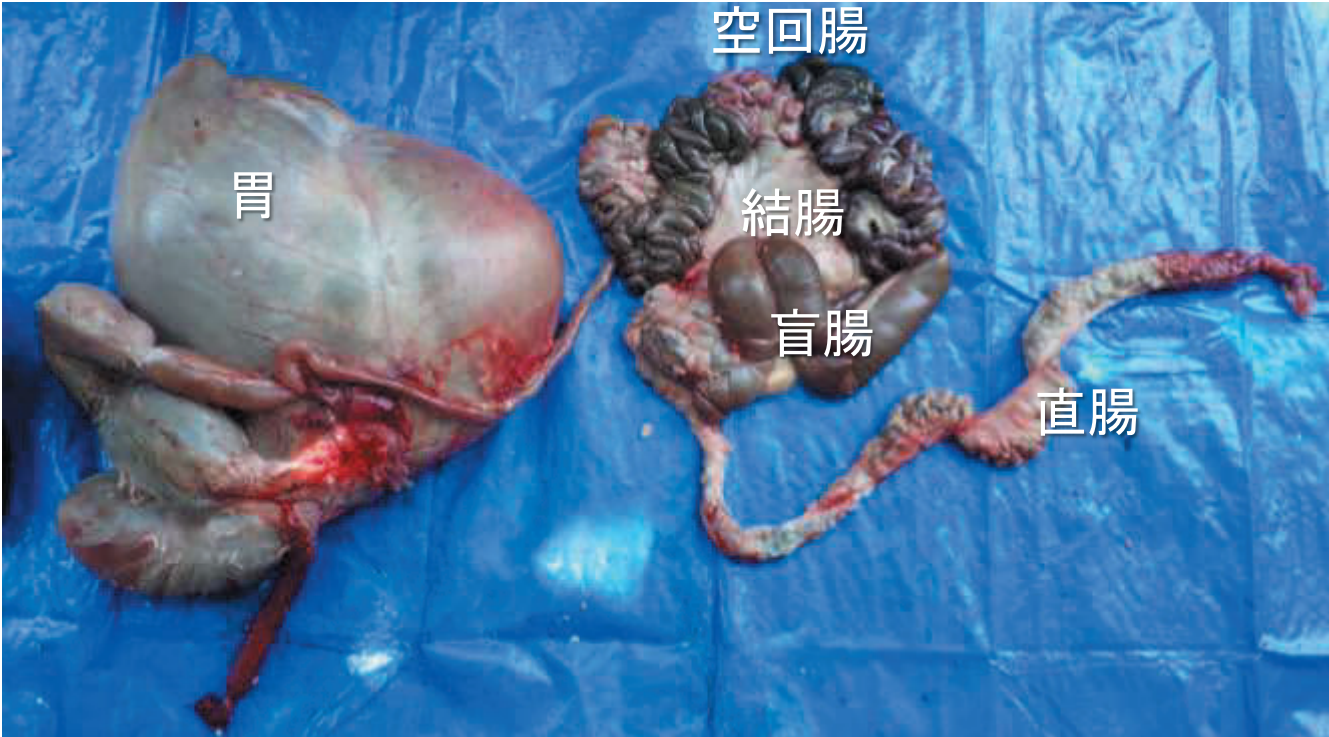
人にも感染する病気のため、狩猟、解体は行わないこと。

また、第2の3「屋外で放血する場合の衛生管理」に示した血液の性状の観察において、炭疽に感染している動物は、放血後の血液が固まらない又は固まりにくい（凝固不全）ため、確認をすること。

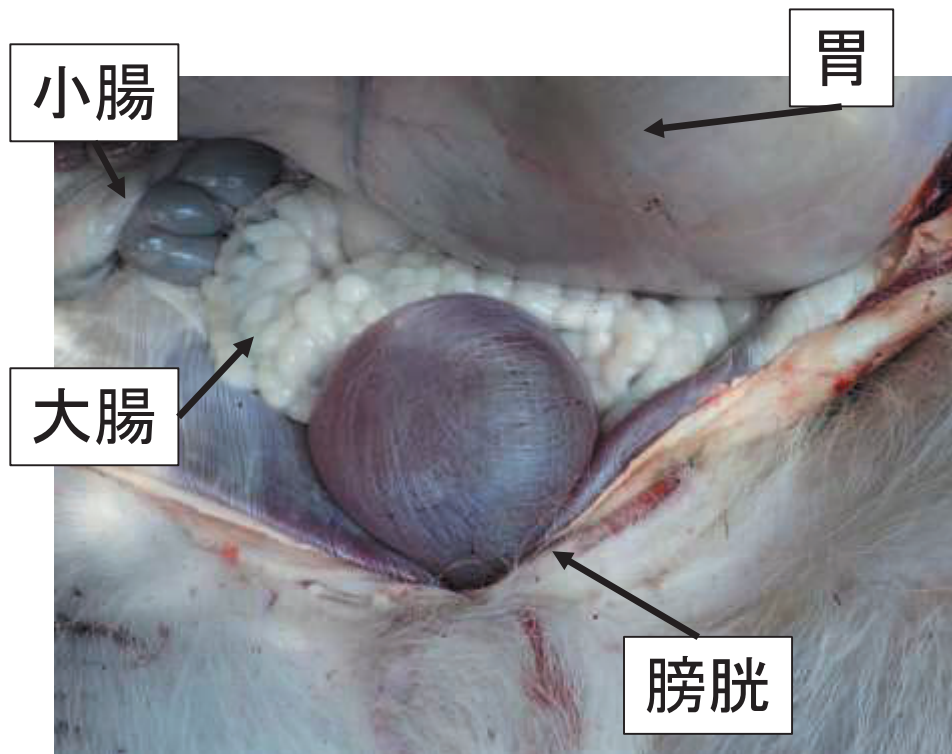
体温の異常について

第2の3「屋外で放血する場合の衛生管理」に示した体温の異常は、シカでは摂氏40度を超えるものを異常として、解体は行わないこと。

摘出後の胃および腸管



泌尿器および生殖器



精巢



子宮、卵巣



イノシシ

内臓摘出前

* 開胸・開腹しながら良く観察する

屋外で内臓摘出した場合は、胃・腸以外の内臓は、個体と一緒に必ず食肉処理施設へ搬入すること。

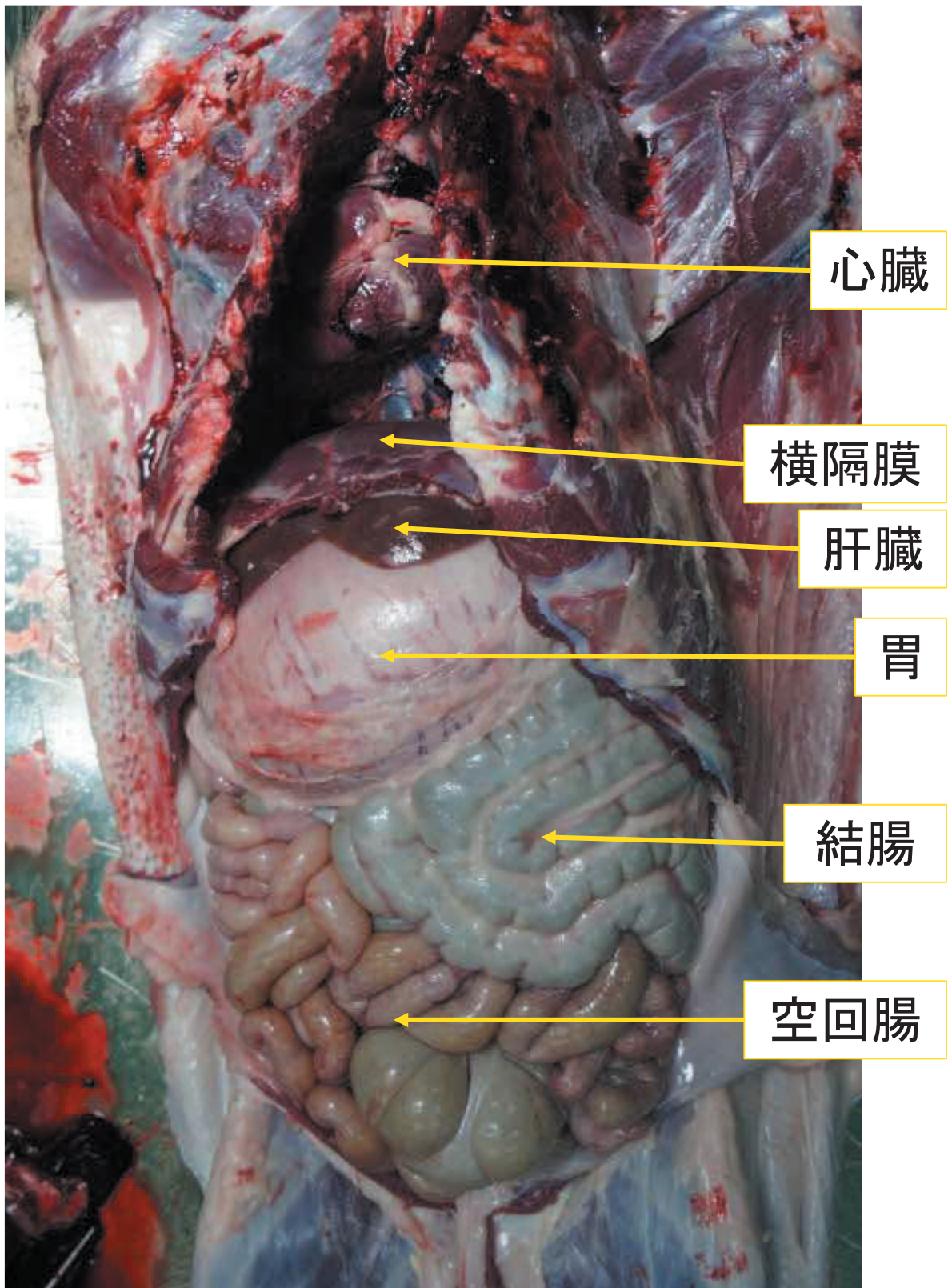


千葉県衛生指導課 提供

胸、腹を開けた際に、血液以外の液体(腹水や胸水)が溜まっていた場合は、枝肉、内臓を全部廃棄すること

内臓摘出前

* 開胸・開腹した状態で良く観察する

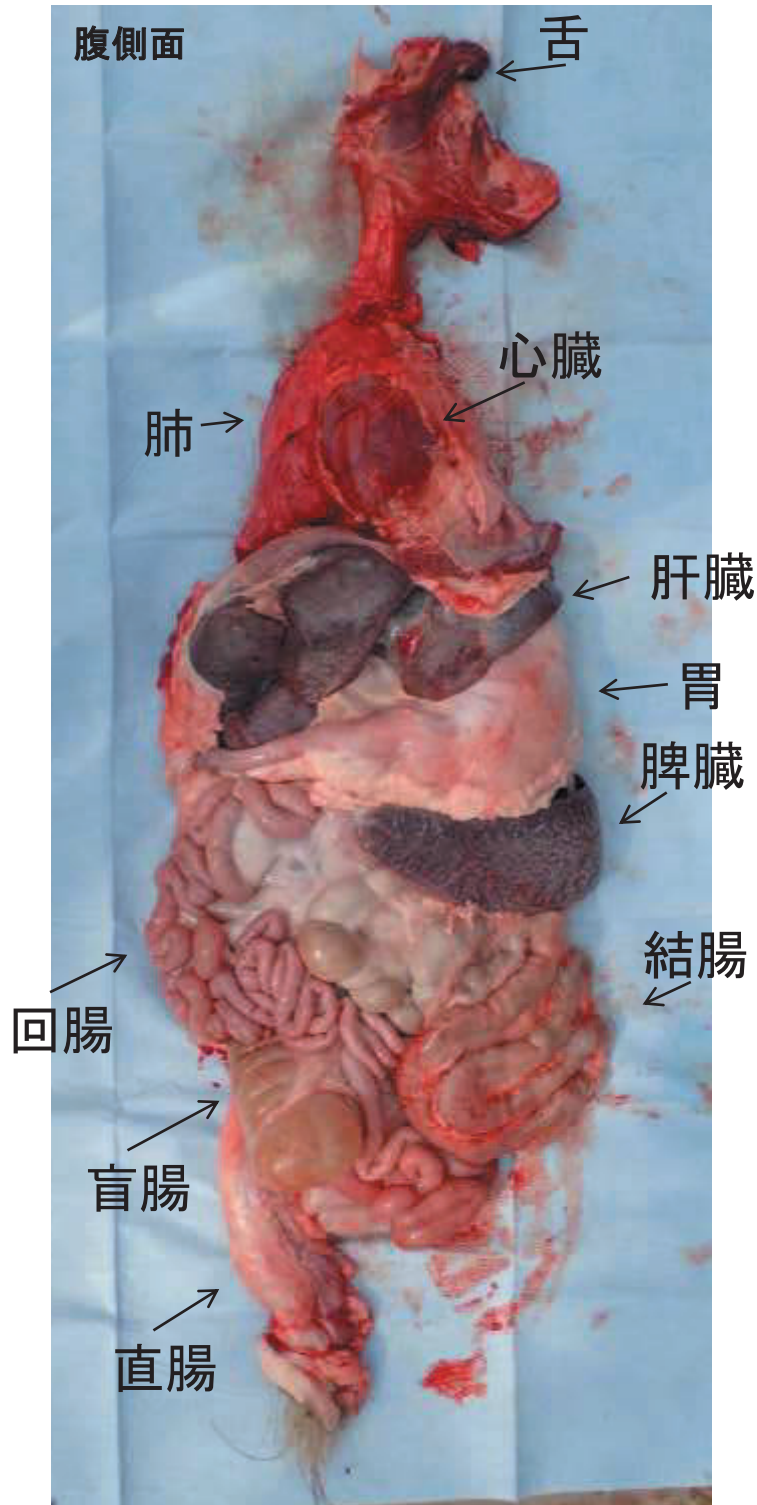


各臓器の表面は滑らかであり、臓器ごとに色調は均一である。
胸水や腹水の貯留も無く、出血や寄生虫の寄生も認められない。

摘出した内臓

始めに大きく全体を確認する。

屋外で内臓摘出した場合は、胃・腸以外の内臓は、個体と一緒に必ず食肉処理施設へ搬入すること。



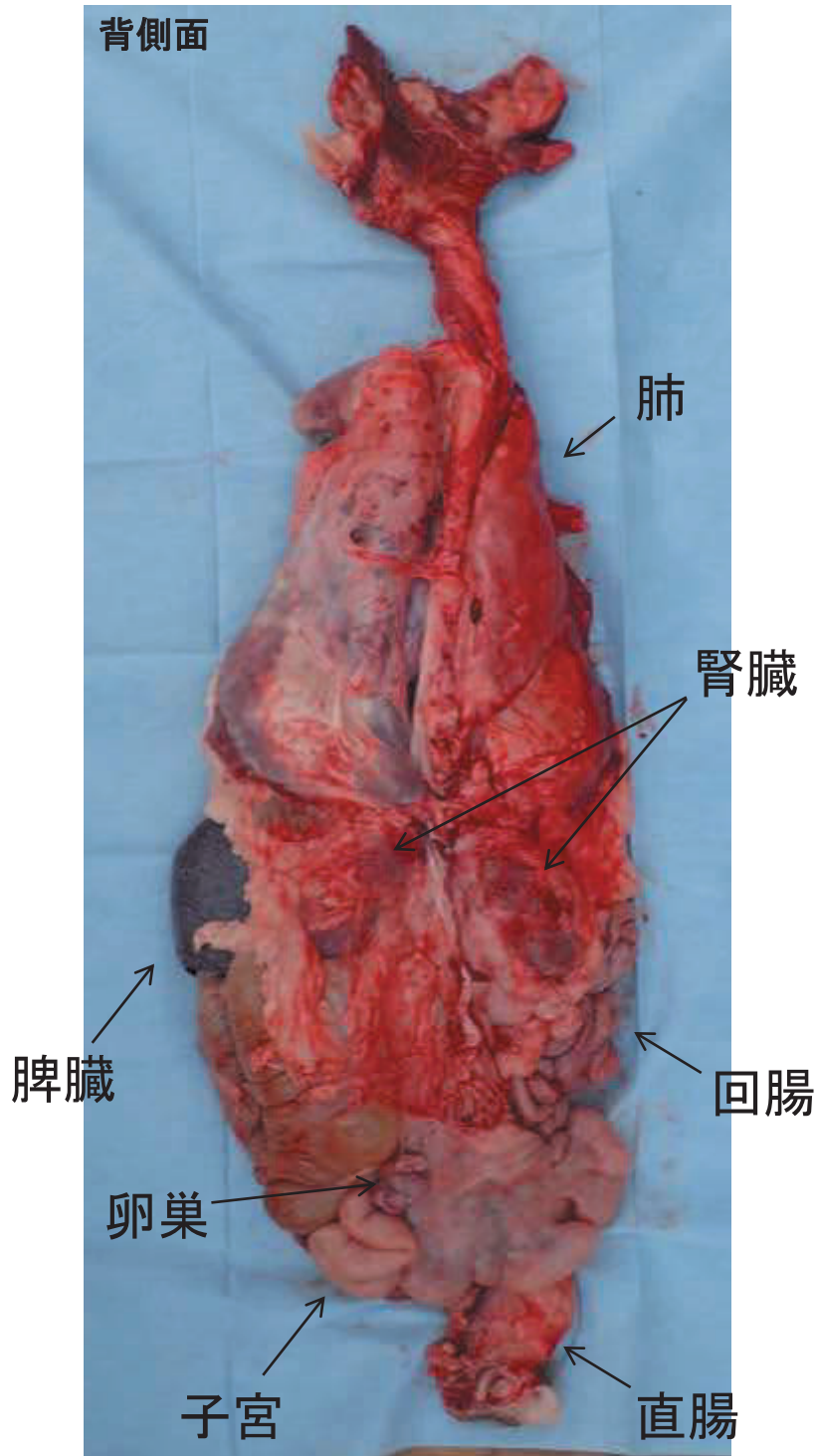
正常

確認事項

・各臓器の表面が滑らかで、臓器ごとに色調や質感が均一であること

摘出した内臓 始めに大きく全体を確認する。

屋外で内臓摘出した場合は、胃・腸以外の内臓は、個体と一緒に必ず食肉処理施設へ搬入すること。



正常

確認事項

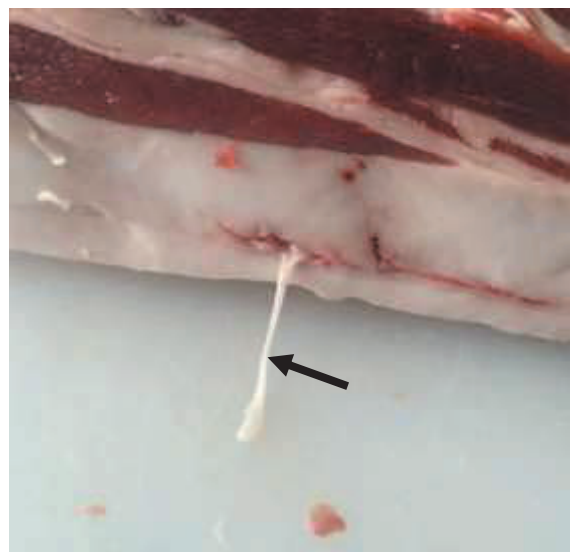
・各臓器の表面が滑らかで、臓器ごとに色調や質感が均一であること

マンソン孤虫症

- ・マンソン裂頭条虫の幼虫は皮下脂肪組織や枝肉でも脂肪豊富な部位に寄生する。
- ・形態としては10～20cmの平らな紐状
- ・第一中間宿主としてはシカ以外に、イノシシや牛、馬など家畜の他、ヘビ、カエル、淡水魚など多岐にわたり、加熱不十分な状態でヒトがこれらの肉を摂食すると感染し、幼虫を含む皮下結節の形成や稀に脳への移行が見られる。



* 島根県・イノシシ
筋肉・胸腔・肺・腹腔(腎周囲)から
マンソン孤虫が抽出された



* 枝肉でも主に脂肪組織において寄生が確認される

胸腔、心臓、肺

正常

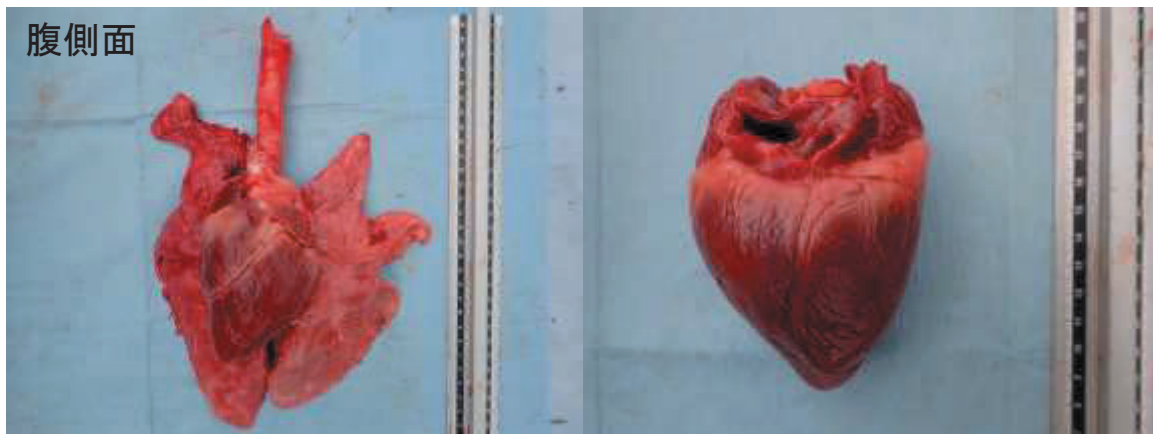


胸腔内に胸水の貯留や癒着を認めない。
肺は適度な空気を含み、水腫を伴わない。
肺に出血巣や膿瘍、結節等を認めない。
肺門リンパ節の腫脹や病変を認めない。

正常

肺は桃色調、心臓は赤褐色調で、表面は滑らか、質感に均一性がある

腹側面



正常

背側面



心臓 屋外で内臓摘出した場合は、食肉処理施設へ搬入すること。

心臓の切開方法

心臓は内側の表面、すべての弁、断面の確認を必ず行ってください。



正常

千葉県衛生指導課 提供

確認事項

- ・弁に疣状の物(色や形は様々、表面もザラザラしたものから、滑らかなものまで様々)がないこと⇒認められた場合には細菌感染症の可能性
- ・白色で粟粒から小豆ほどの大きさの結節がないこと

※心筋に白色で粟粒から小豆大ほどの結節があった場合は、寄生虫に感染している可能性があります。

⇒この寄生虫は枝肉にも寄生することがあるため、全部廃棄とすること。

<枝肉、内臓 全部廃棄>



正常

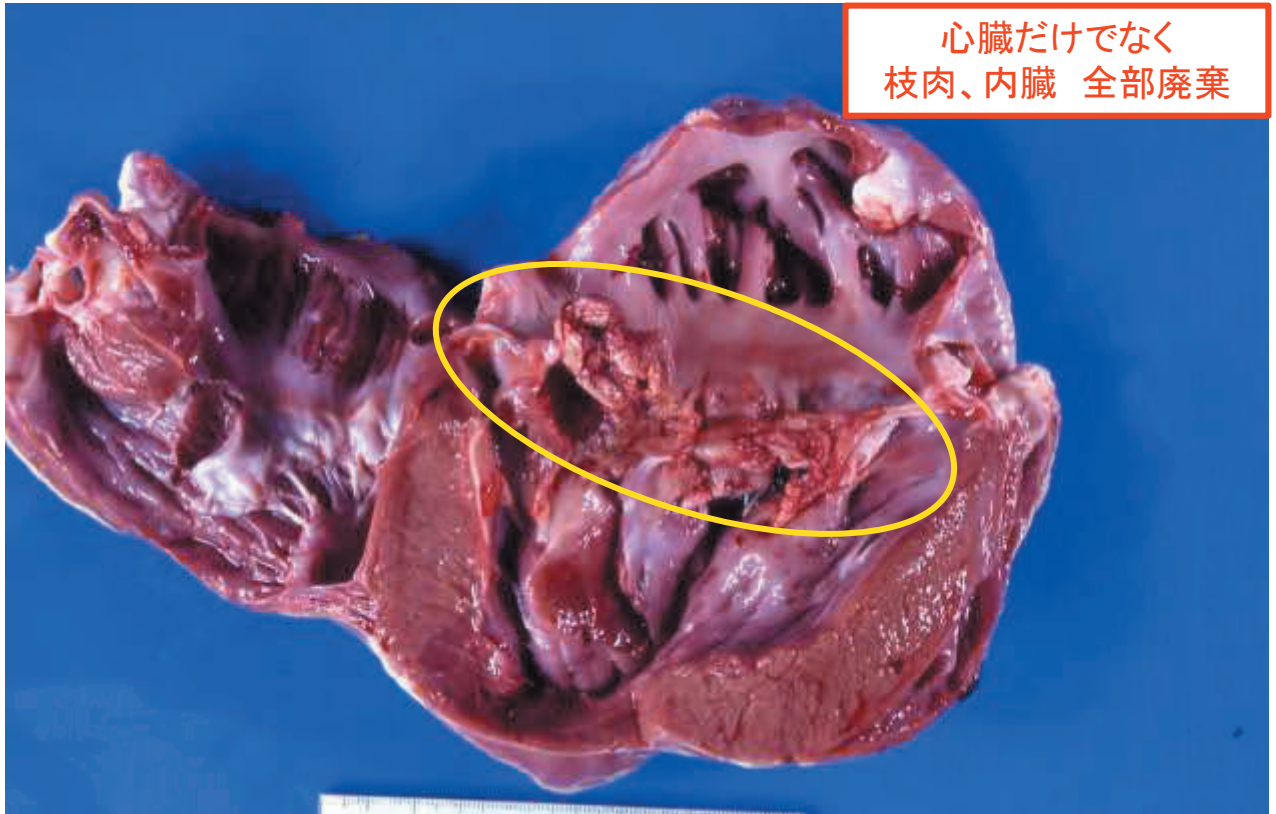
千葉県衛生指導課 提供

確認項目

- ・外側はなめらかで繊維素が付着していないこと

(参考)豚の疣贅性心内膜炎

* 弁に疣状の病変を形成



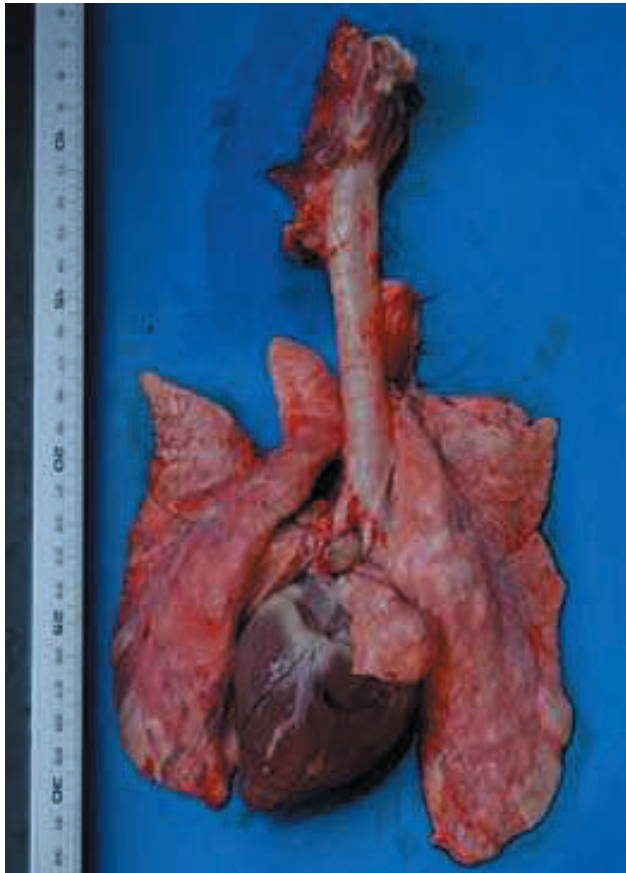
心臓だけでなく
枝肉、内臓 全部廃棄

神奈川県食肉衛生検査所 提供

疣状の病変は、心臓の弁に付着した細菌の塊です。
細菌が血流に乗って全身に広がる〈敗血症〉に伴うことが多く、
細菌が筋肉にも広がっている可能性が高いため、心臓だけでなく
枝肉と内臓を含む全部廃棄とする。

肺

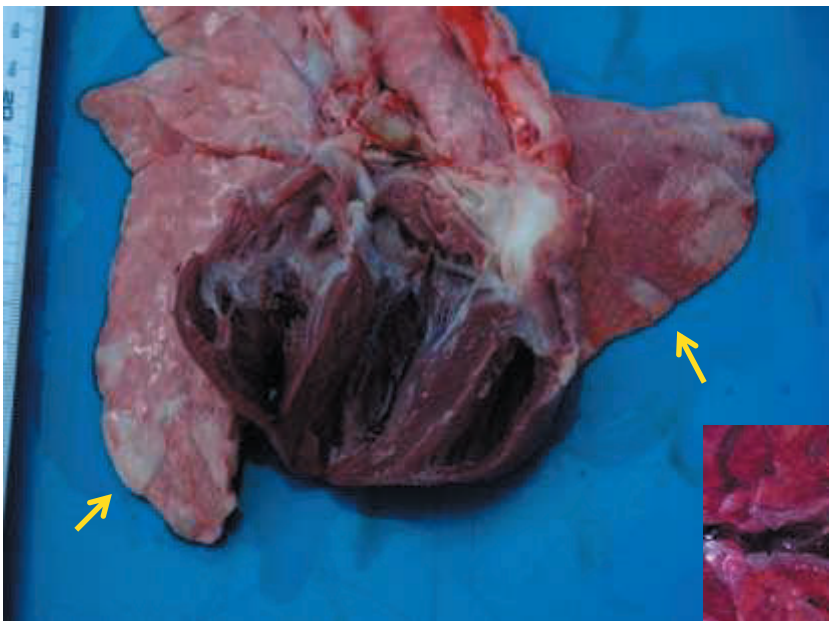
屋外で内臓摘出した場合は、食肉処理施設へ搬入すること。



確認事項

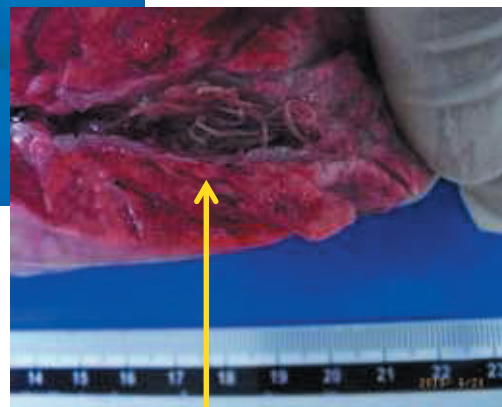
- ・表面が滑らかであること
表面に繊維素が付着していないこと
結節(膿瘍、腫瘍等)がないこと
- ・色に異常がないこと
出血していないこと
- ・大きさ、形に異常がないこと
肺気腫(肺が全体あるいは局所で過剰に空気を含み膨隆すること)
肺水腫(肺に水分が溜まり水っぽい状態)になっていないこと

* 実際には、狩猟時や死亡直前に循環障害等により肺に出血や気腫、水腫が認められることもある



周縁部に表面からやや隆起した白色部位が観察される
＜寄生虫(肺虫)による
周辺性肺気腫＞

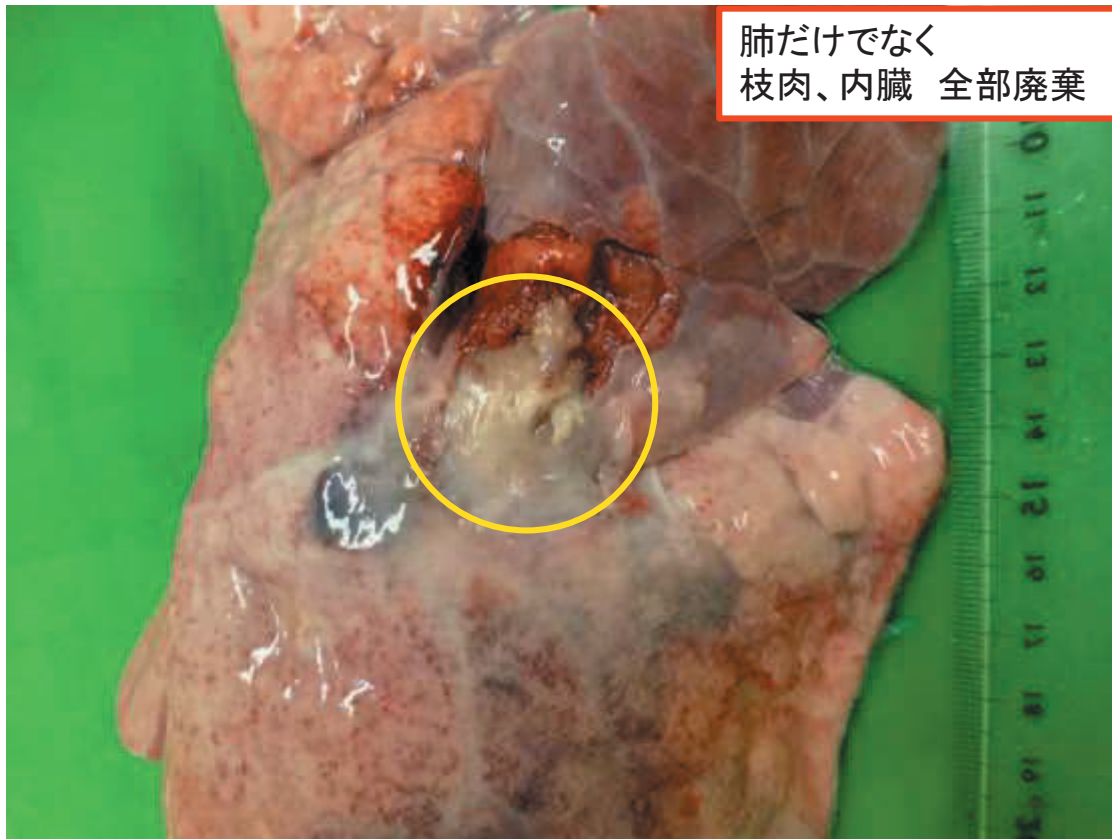
肺 廃棄



断面:気管支内に寄生虫
(通常の確認では表面から観察する)

(参考)豚の肺膿瘍

* 黄白色～黄緑色の膿瘍を形成



(通常の確認では表面から確認すること。)

神奈川県食肉衛生検査所 提供

細菌感染に伴い生じる病変で、胸膜炎や心外膜炎等を併発することもあり、細菌が血流によって筋肉へ広がっている可能性があります。⇒肺だけでなく、枝肉や内臓は全部廃棄する

肝臓

屋外で内臓摘出した場合は、食肉処理施設へ搬入すること。



正常



正常

左の写真と同じ肝臓の裏側



正常



正常

確認事項

- ・表面が滑らかであること
表面に繊維素が付着していないこと
結節（膿瘍、腫瘍等）や嚢胞がないこと
表面に白色に盛り上がった管状結節がないこと（寄生虫による病変）
- ・色に異常がないこと
出血していないこと、色調の異なる病巣がないこと
黄色、緑色、暗赤色など、正常と異なる色でないこと
- ・形、大きさに異常がないこと
大きかったり、小さかったりしないこと、異常な形をしていないこと
硬かったり、柔らかかったりしないこと

* 正常個体でも、死後から解体までの時間が長いと、死後変化により他臓器に接する面が黄～緑色、退色して薄茶色を呈したり、軟化して柔らかくなることがある。



表面に白色調の繊維素が付着しザラザラした質感になっている。

死後変化により色調が暗紫色を呈している。



表面に隆起した白色結節がみられる

枝肉、内臓 全部廃棄



表面に隆起した白色結節がみられる
(上の写真と同じ肝臓の裏側)

枝肉、内臓 全部廃棄



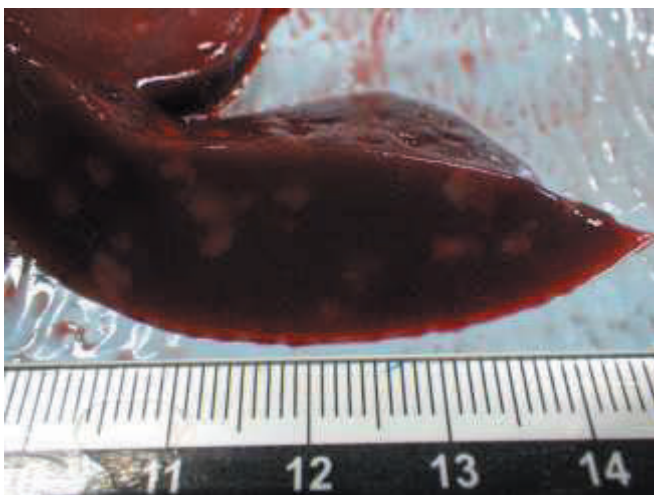
膿瘍と思われる白色病変がみられる

枝肉、内臓 全部廃棄



肝臓全体に小型の白斑が多数散在している。
細菌の可能性が高く、血流を介して細菌が筋肉に拡散している可能性があるため、全部廃棄とすること。

枝肉、内臓 全部廃棄



上記肝臓の白斑の拡大写真



限局性に白色病変が散在



白色の小結節が多数散在



限局性に白色結節が散在

肝臓の臓側面は死後変化により
煮肉様の色調を呈する



肝包膜炎

肝臓の横隔面が線維素析出により
やや混濁した白色調を示す



肝膿瘍

肝臓の横隔面に黄白色の膿瘍形成

脾臓 正常



確認事項

- ・表面が滑らかであること⇒結節(膿瘍、腫瘍等)がないこと
- ・色に異常がないこと⇒出血していないこと
- ・形、大きさに異常がないこと

* 脾臓は循環器障害により血液が貯留して腫大する場合と感染症により腫大する場合がある。⇒腫大していた場合には注意すること

子宮・卵巣 正常



妊娠期間は約120日であり春先に出産する。時期により平均2～8頭の胎児が子宮内に確認される。

腎臓

屋外で内臓摘出した場合は、食肉処理施設へ搬入すること。



正常

確認事項

- ・表面が滑らかであること
結節（膿瘍、腫瘍等）や嚢胞がなく
寄生虫の寄生が無いこと
- ・色に異常がないこと
出血していないこと
色調の異なる病巣がないこと
- ・形、大きさに異常がないこと
左右がほぼ同じ大きさで、異常な
形をしていないこと

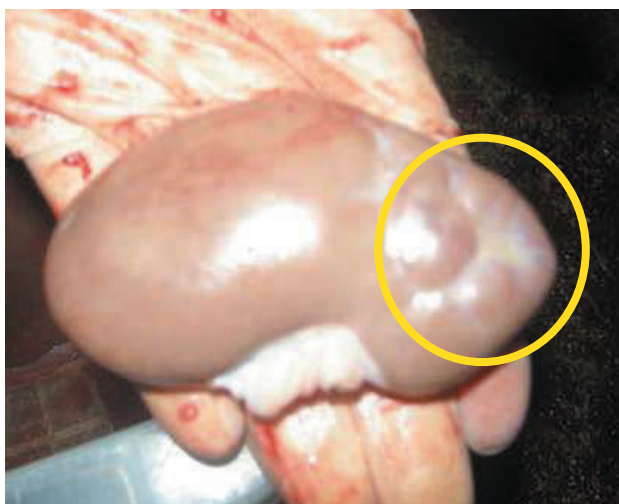
* 動物が横向きで放置された場合
片側に血液が溜まり、片側腎臓のみ
赤黒いことがある

* 死後変化により腸と接した面の
色調が薄茶色へ退色することがある



白色の病巣が散在している

枝肉、内臓 全部廃棄



色調が薄茶色へと退色している
表面は滑らかでなく、凹凸があり
硬くなっている

枝肉、内臓 全部廃棄

腎臓

屋外で内臓摘出した場合は、食肉処理施設へ搬入すること。

正常



正常



確認事項

- ・表面が滑らかであること
結節(膿瘍、腫瘍等)や嚢胞がなく
寄生虫の寄生が無いこと
- ・色に異常がないこと
出血していないこと
色調の異なる病巣がないこと
- ・形、大きさに異常がないこと
左右がほぼ同じ大きさで、異常な
形をしていないこと

* 動物が横向きで放置された場合
片側に血液が溜まり、片側腎臓のみ
赤黒いことがある

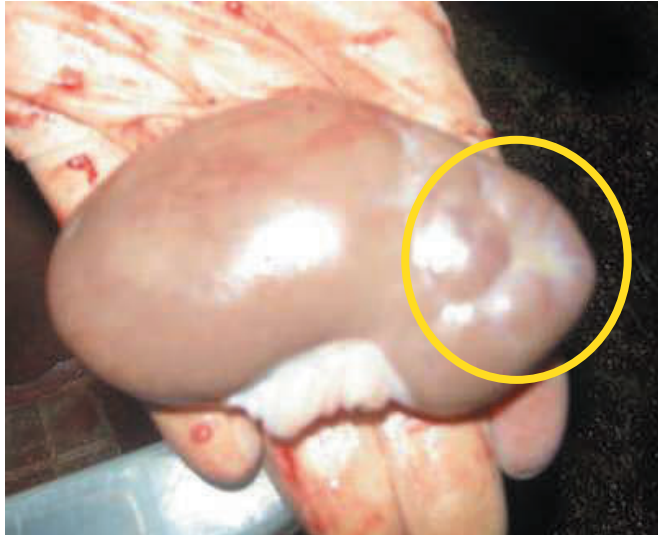
* 死後変化により腸と接した面の
色調が薄茶色へ退色することがある

異常(白斑)



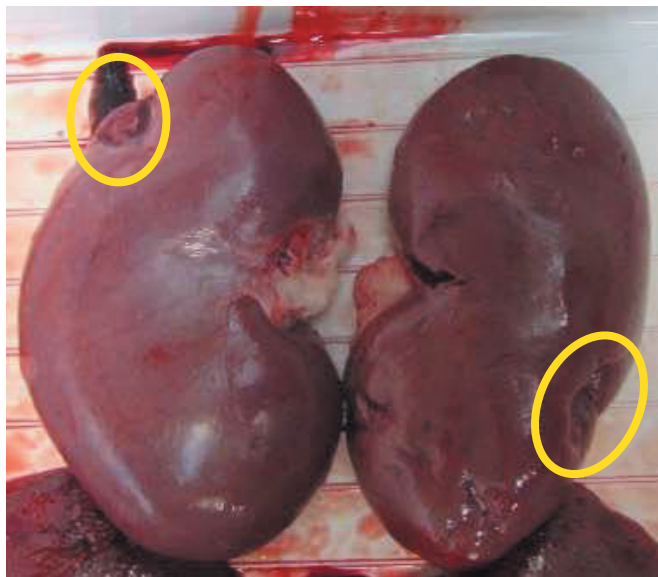
白色斑状の病巣が散在している

枝肉、内臓 全部廃棄

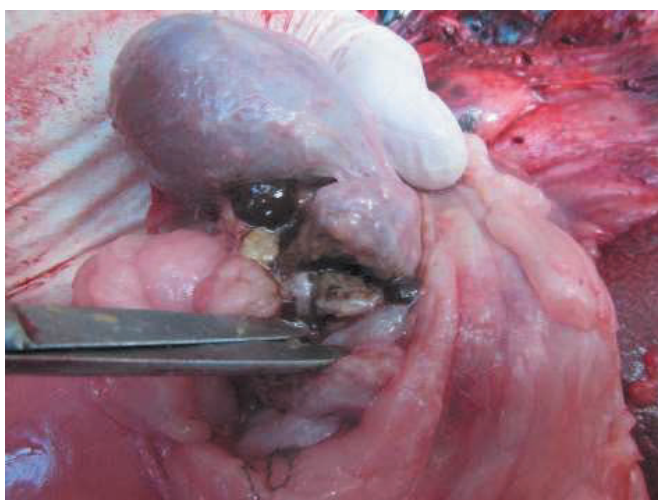


色調が薄茶色へと退色している
表面は滑らかでなく、凹凸があり
硬くなっている

枝肉、内臓 全部廃棄



腎臓の表面に嚢胞あるいは
凹凸部があり全体的に滑らかでない
(細菌感染等により組織が壊死して
陥没した場合や、嚢胞破裂の場合
に認められる)



腎虫の寄生

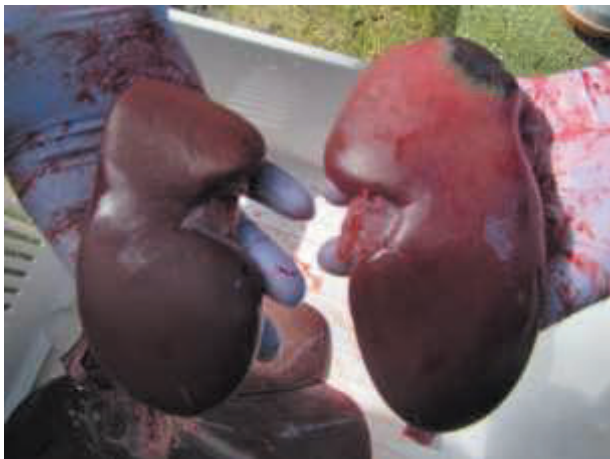
* 全体的に腎臓自体も凸凹しており
切開すると血液や濃汁も排出された

結節



細菌感染や寄生虫性、それらに付随する炎症により結節が形成される

腎嚢胞



先天性あるいは後天性の場合があり、嚢胞内には液体が貯留する。
単純性と多嚢胞性がある。

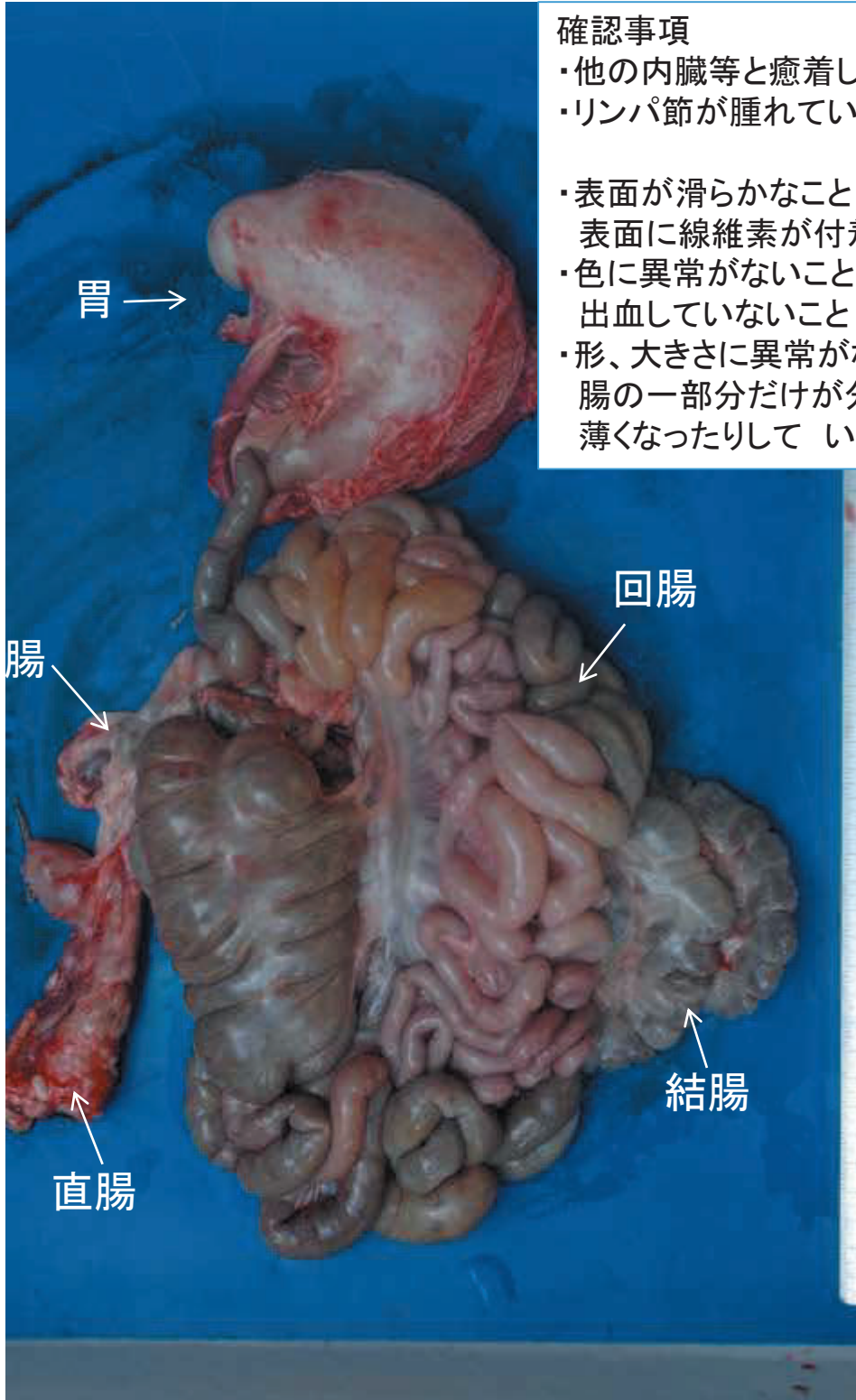
腎臓の萎縮



先天性あるいは後天性に認められる。
後天性には腎梗塞や慢性腎炎の
終末期に認められることが多い。

胃 腸

正常

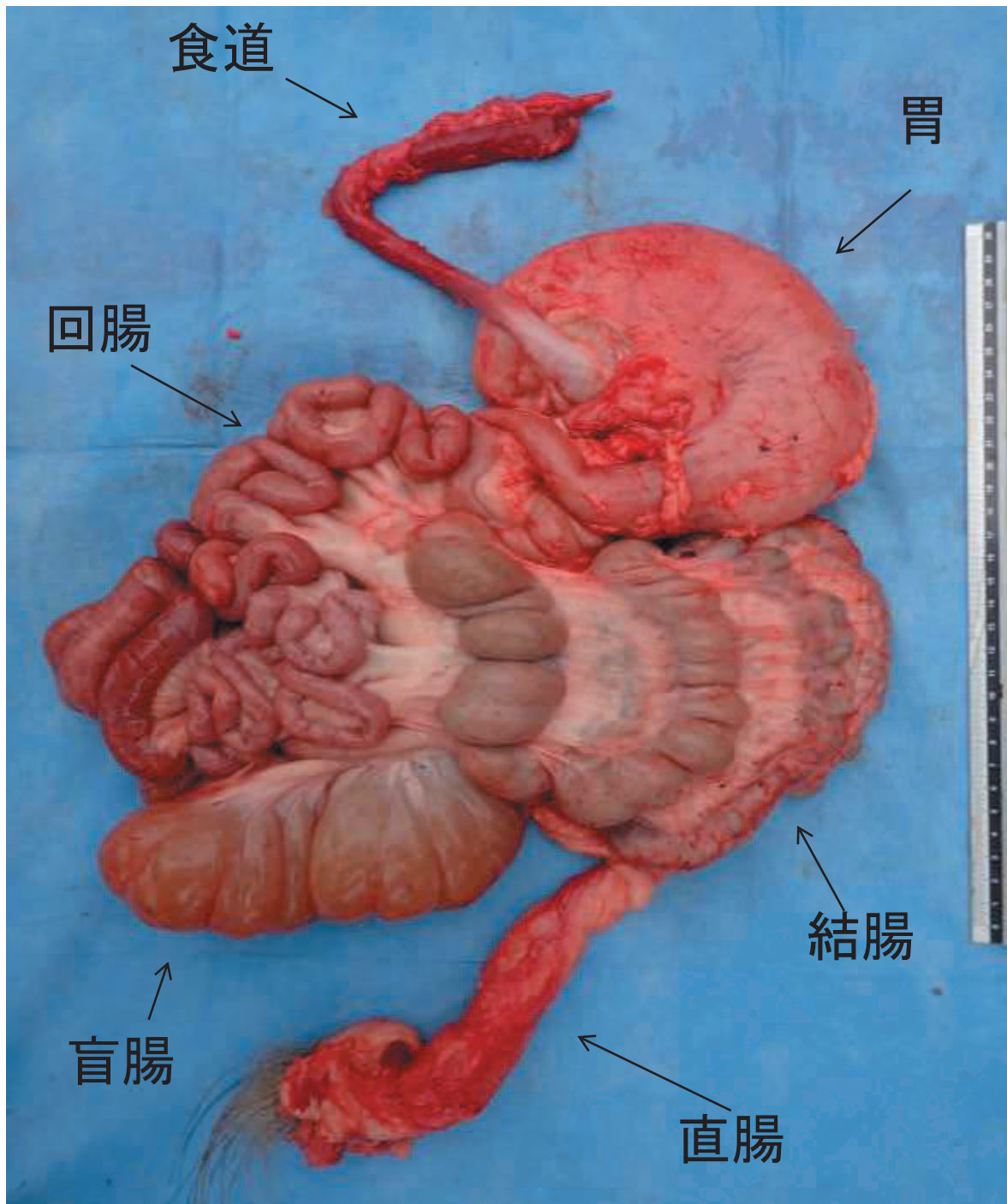


確認事項

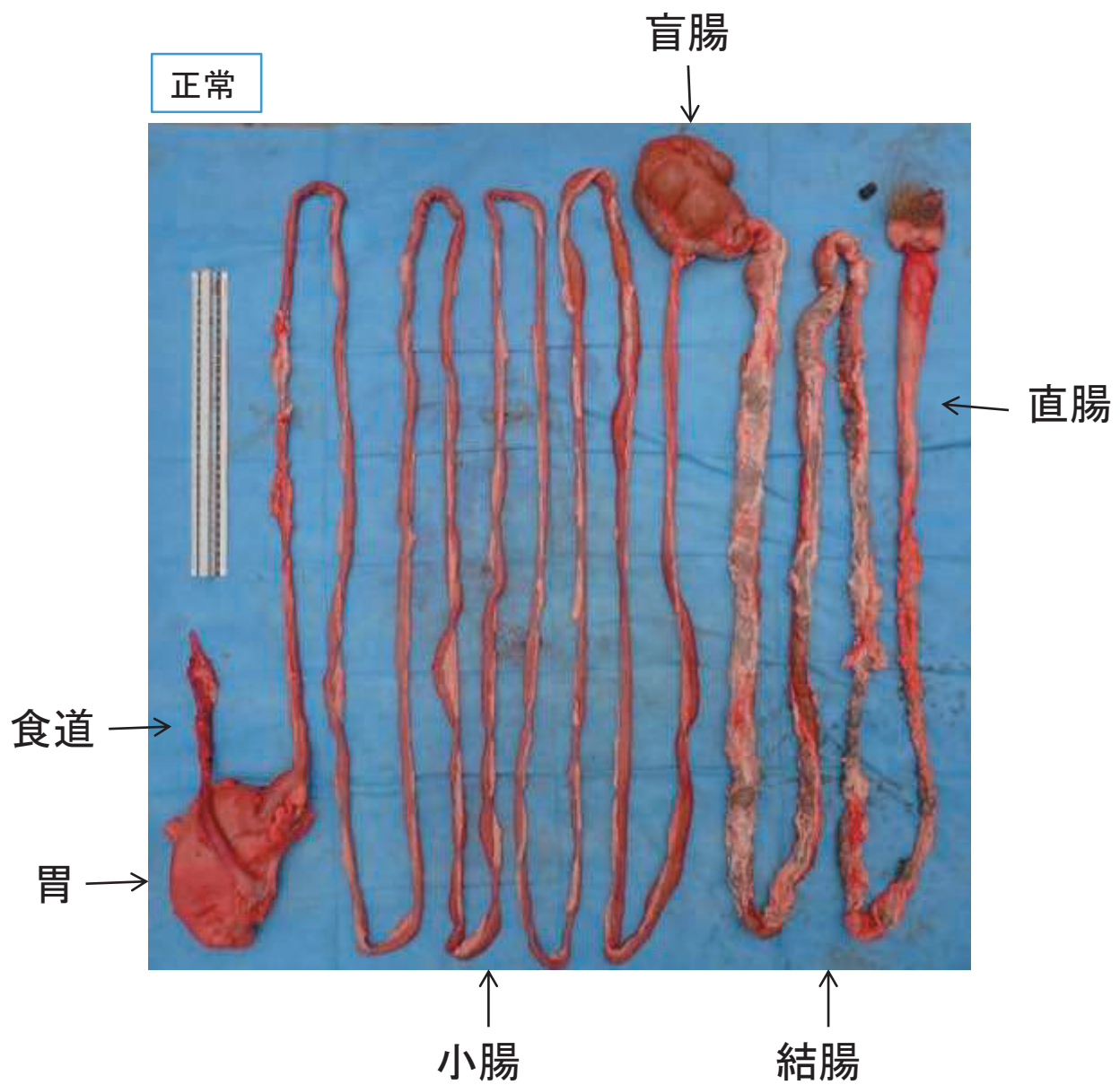
- ・他の内臓等と癒着していないこと
- ・リンパ節が腫れていないこと
- ・表面が滑らかなこと
- ・表面に線維素が付着していないこと
- ・色に異常がないこと
- ・出血していないこと
- ・形、大きさに異常がないこと
- ・腸の一部分だけが分厚くなったり、薄くなったりしていないこと

胃 腸

正常

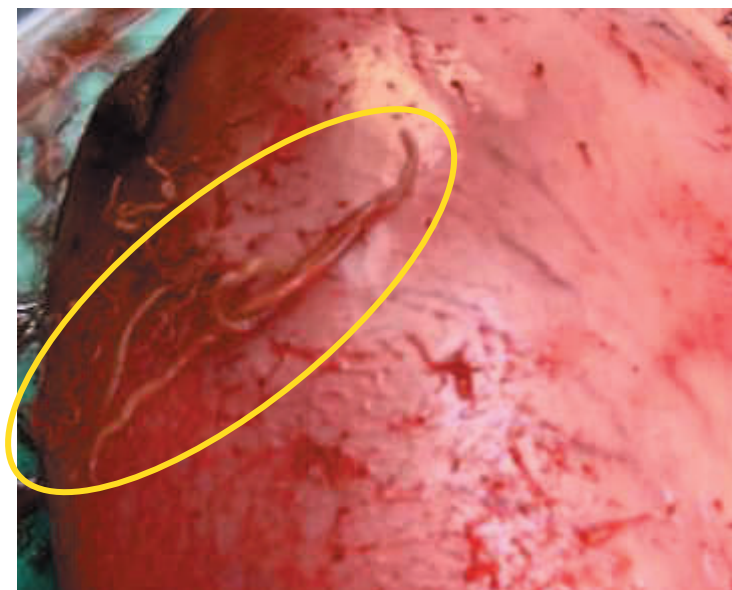


胃 腸(腸管を切開した状態)



胃

豚胃虫



線維素が付着してる
寄生虫(豚胃虫)の寄生を認める

胃 廃棄

ドロレス顎口虫



小腸

<イノシシの回腸にみられた大鉤頭虫>

- * 小腸のパイエル板(リンパ装置)が炎症により腫脹して結節状を呈する
- * 鉤頭虫は主に昆虫などを中間宿主とし、終宿主の小腸に寄生する。
日本では豚やイノシシでの症例が報告されている。



頭部

確認事項

- ・鼻先、口の中、舌にただれ、出血がないこと
- ・口の中、目の粘膜が黄色(黄疸)になっていないこと
- ・チアノーゼ(紫色に染まる)がないこと
- ・奇形、腫瘍等がないこと



被毛が薄い

狩猟、解体しない

※外部寄生虫、被毛の様子(脱毛)、痩せている度合い等はガイドラインに従って、狩猟、解体前に全身を確認すること。

血液の異常について

ガイドライン第2の2「狩猟しようとする又は狩猟した野生鳥獣に関する異常の確認」、第4の3「食肉処理業者が、解体前に野生鳥獣の異常の有無を確認する方法」として、天然孔(肛門や鼻孔)からの出血を確認すること。

天然孔から黒い、タール状の出血が見られる場合、炭疽という病気の可能性がある。炭疽は、人にも感染する病気のため、狩猟、解体は行わないこと。

また、第2の3「屋外で放血する場合の衛生管理」に示した血液の性状の観察において、炭疽に感染している動物は、放血後の血液が固まらない又は固まりにくい(凝固不全)ため、確認すること。

体温の異常について

第2の3「屋外で放血する場合の衛生管理」に示した体温の異常は、イノシシでは摂氏42度を超えるものを異常として、解体は行わないこと。

(参考)豚の膿毒症

化膿を引き起こす細菌が体内に侵入し、臓器や筋肉に播種性の化膿巣が認められます⇒解剖時に見つかった際は<全廃棄>

写真のように、膿瘍が見られるものは、狩猟、解体しないこと



神奈川県食肉衛生検査所 提供



神奈川県食肉衛生検査所 提供

(参考) 豚の豚丹毒^{じんましん}(蕁麻疹型)

枝肉、内臓 全部廃棄

豚丹毒菌の感染によって起こる人獣共通感染症。豚における症状は敗血症型、蕁麻疹型、関節炎型および心内膜炎型に分類される。豚、イノシシの他ヒトを含む哺乳類、鳥類に感染する。



神奈川県食肉衛生検査所 提供

剥皮したあとに、菱形の蕁麻疹がある。

豚の場合、被毛は細く、短く、皮膚の色は白色のものが多いため、剥皮前でも確認するのは容易だが、イノシシは被毛が太く長いため、剥皮前に確認するのは困難。

剥皮後に、菱形の蕁麻疹が枝肉に見られた場合は、解体を中止すること。

ヒトにも感染するため十分に注意する。



剥皮する前(生体)